



CS3000 シリーズ スキャナ

プロダクトリファレンス ガイド



CS3000 シリーズ スキャナ プロダクトリファレンス ガイド

72E-136088-04JA

Revision A

2013 年 2 月

© 2013 Motorola Solutions, Inc. All rights reserved.

Motorola の書面による許可なしに、本書の内容をいかなる形式でも、または電気的あるいは機械的な手段により、複製または使用することを禁じます。これには、コピー、記録、または情報の保存および検索システムなど電子的または機械的な手段が含まれます。本書の内容は、予告なしに変更される場合があります。

ソフトウェアは、厳密に「現状のまま」提供されます。ファームウェアを含むすべてのソフトウェアは、ライセンスに基づいてユーザに提供されます。本契約 (ライセンス プログラム) に基づいて提供される各ソフトウェアまたはファームウェアに対して、ユーザに移譲不可で非排他的なライセンスを付与します。下記の場合を除き、事前に書面による Motorola の同意がなければ、ユーザがライセンスを譲渡、サブライセンス、または移譲することはできません。著作権法で認められる場合を除き、ライセンス プログラムの一部または全体をコピーする権限はありません。ユーザは、ライセンス プログラムを何らかの形式で、またはライセンス プログラムの何らかの部分を変更、結合、または他のプログラムへ組み込むこと、ライセンス プログラムからの派生物を作成すること、ライセンス プログラムを Motorola の書面による許可なしにネットワークで使用するのを禁じられています。ユーザは、本契約に基づいて提供されるライセンス プログラムについて、Motorola の著作権に関する記載を保持し、承認を受けて作成する全体または一部のコピーにこれを含めることに同意します。ユーザは、提供されるライセンス プログラムまたはそのいかなる部分についても、逆コンパイル、逆アセンブル、デコード、またはリバース エンジニアリングを行わないことに同意します。

Motorola は、信頼性、機能、またはデザインを向上させる目的でソフトウェアまたは製品に変更を加えることができるものとします。

Motorola は、本製品の使用、または本文書内に記載されている製品、回路、アプリケーションの使用が直接的または間接的な原因として発生する、いかなる製造物責任も負わないものとします。

明示的、黙示的、禁反言、または Motorola, Inc. の知的所有権上のいかなる方法によるかを問わず、ライセンスが付与されることは一切ないものとします。Motorola 製品に組み込まれている機器、回路、およびサブシステムについてのみ、黙示的にライセンスが付与されるものとします。

MOTOROLA、MOTO、MOTOROLA SOLUTIONS、Stylized M のロゴマークは、Motorola Trademark Holdings, LLC の商標または登録商標であり、ライセンスの下に使用されています。その他のすべての商標は、該当する各所有者が権利を有しています。

Motorola Solutions, Inc.
One Motorola Plaza
Holtsville, New York 11742-1300
<http://www.motorolasolutions.com>

保証

Motorola のハードウェア製品の保証については、次のサイトにアクセスしてください。
<http://www.motorolasolutions.com/warranty>

改訂版履歴

元のマニュアルに対する変更を次に示します。

変更	日付	説明
-01 Rev A	2010 年 07 月	初期リリース
-02 Rev A	2010 年 10 月	Motorola Droid Bluetooth 接続の例を追加。
-03 Rev A	2012 年 2 月	仕様を仕様 / データシートへのリンクに置き換え、バッテリー交換の注意事項を追加、iPad への接続に関する情報を追加。
-04 Rev A	2013 年 2 月	エリア外の動作に関する説明を更新。

目次

このガイドについて

はじめに.....	xi
プロダクトリファレンス ガイド – ここから開始	xi
章の説明.....	xi
表記規則.....	xii
関連文書.....	xiii
サービスに関する情報.....	xiii

第 1 章: ご使用の前に

はじめに	1-1
スキャナを開梱する	1-2
クレードル	1-2
クレードルの接続	1-2
スキャナ バッテリの充電	1-3
USB ホスト ケーブルによる充電	1-3
充電クレードルによる充電	1-4
スキャナ充電 LED	1-5
ホスト コンピュータへの接続	1-5
バッチ接続	1-5
Bluetooth 接続: 開発オプション	1-5
Bluetooth 接続の例	1-6
PIN 入力のための数値バーコード	1-24
スキャナの構成	1-25
複数スキャナのステージング	1-25
構成ファイルの編集	1-26

第 2 章: スキャン

はじめに	2-1
スキャン	2-1
バーコードの削除	2-2

バーコード データのホストへの転送	2-2
バッチ スキャナからのデータの転送	2-2
無線スキャナからのデータの転送	2-2
ユーザ インタフェースの定義	2-3
LED の意味	2-3
ビープ音の意味	2-5

第 3 章: ユーザ設定

はじめに	3-1
スキャン シーケンスの例	3-1
スキャン中のエラー	3-1
ユーザ設定のデフォルトパラメータ	3-2
リセット	3-4
工場出荷時の状態に戻す	3-4
日付と時刻の設定	3-5
日付の設定	3-5
時刻の設定	3-5
日付および時刻の設定のキャンセル	3-5
日付および時刻設定のための数値バーコード	3-6
データのクリア	3-7
ビープ音の設定	3-8
ビープ音の音量	3-8
ビープ音の音程	3-9
ビープ音のミュート	3-10
スキャナ オプション	3-11
スキャン角度	3-11
「読み取りなし」メッセージの転送	3-12
Bluetooth オプション	3-13
Bluetooth ペアリング解除	3-13
Bluetooth HID プロファイル	3-13
Bluetooth シリアル ポート プロファイル (SPP)	3-13
すべてのシンボル体系の無効化	3-14
リニア コード タイプのセキュリティ レベル	3-15
双方向リダンダンシー	3-16
データ オプション	3-17
コード ID キャラクタの転送	3-17
プリフィックス/サフィックス値	3-18
スキャン データ転送フォーマット	3-19
バージョンの送信	3-21
ファームウェア バージョン	3-21
Bluetooth バージョン	3-21
スキャン エンジン バージョン	3-21
設定の保存	3-22

第 4 章: シンボル体系

はじめに	4-1
スキャン シーケンスの例	4-1
スキャン中のエラー	4-1
シンボル体系のデフォルトパラメータ	4-2

UPC/EAN/JAN	4-5
UPC-A の有効化/無効化	4-5
UPC-E の有効化/無効化	4-5
UPC-E1 の有効化/無効化	4-6
EAN/JAN-8 の有効化/無効化	4-6
EAN/JAN-13 の有効化/無効化	4-7
Bookland EAN の有効化/無効化	4-7
UPC/EAN/JAN サプリメンタルのデコード	4-8
ユーザプログラム可能なサプリメンタル	4-12
UPC/EAN/JAN サプリメンタルのリダンダンシー	4-12
UPC-A チェック デジットを転送	4-13
UPC-E チェック デジットを転送	4-13
UPC-E1 チェック デジットを転送	4-14
UPC-A プリアンブル	4-14
UPC-E プリアンブル	4-15
UPC-E1 プリアンブル	4-16
UPC-E を UPC-A に変換	4-17
UPC-E1 を UPC-A に変換する	4-17
EAN Zero Extend	4-18
Bookland ISBN 形式	4-19
UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル	4-20
UCC Coupon Extended Code	4-21
Code 128	4-21
Code 128 を有効/無効にする	4-21
GS1-128 (旧 UCC/EAN-128) を有効/無効にする	4-22
ISBT 128 を有効/無効にする	4-22
Code 128 の読み取り桁数を設定する	4-22
CODE 39	4-23
Code 39 を有効/無効にする	4-23
Trioptic Code 39 を有効/無効にする	4-23
Code 39 から Code 32 への切り替え (Italian Pharma Code)	4-24
Code 32 プリフィックス	4-24
Code 39 の読み取り桁数を設定する	4-25
Code 39 チェック デジット検証	4-26
Code 39 チェック デジットを転送	4-26
Code 39 Full ASCII を有効/無効にする	4-27
CODE 93	4-28
Code 93 を有効/無効にする	4-28
Code 93 の読み取り桁数を設定する	4-28
CODE 11	4-30
Code 11 を有効/無効にする	4-30
Code 11 の読み取り桁数を設定する	4-30
Code 11 チェック デジットの確認	4-32
Code 11 チェック デジットの転送	4-33
Interleaved 2 of 5	4-33
Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする	4-33
Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定	4-34
Interleaved 2 of 5 チェック デジット検証	4-36
Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送	4-36
Interleaved 2 of 5 を EAN/JAN-13 に変換する	4-37

Discrete 2 of 5	4-37
Discrete 2 of 5 を有効/無効にする	4-37
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定	4-38
Chinese 2 of 5	4-39
Chinese 2 of 5 を有効/無効にする	4-39
Codabar	4-39
Codabar を有効/無効にする	4-39
Codabar の読み取り桁数設定	4-40
CLSI 編集	4-41
NOTIS 編集	4-41
MSI	4-42
MSI の読み取り	4-42
MSI の読み取り桁数設定	4-43
MSI チェック デジット	4-44
MSI チェック デジットの転送	4-44
MSI チェック デジットのアルゴリズム	4-45
GS1 DataBar	4-45
GS1 DataBar-14 を有効/無効にする	4-45
GS1 DataBar Limited を有効/無効にする	4-46
GS1 DataBar Expanded を有効/無効にする	4-46
GS1 DataBar から UPC/EAN/JAN への変換	4-47
数値バーコード	4-48
キャンセル	4-50

第 5 章: メンテナンスおよび技術仕様

はじめに	5-1
メンテナンス	5-1
トラブルシューティング	5-2
技術仕様	5-3
デコード ゾーン	5-3

付録 A: 標準のデフォルト設定パラメータ

付録 B: プログラミング リファレンス

コード タイプ ID	B-1
シンボル コード ID	B-2
AIM コード ID	B-3
GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)	B-6
プリフィックスとサフィックスの設定	B-7

付録 C: サンプル バーコード

UPC-A	C-1
UPC-E	C-1
UPC-E1	C-2
EAN/JAN-13	C-2
EAN/JAN-8	C-2
Code 39	C-2

Trioptic Code 39	C-3
Code 93	C-3
Code 11	C-3
Codabar	C-4
MSI	C-4
Interleaved 2 of 5	C-4

索引

このガイドについて

はじめに

『CS3000 シリーズ スキャナプロダクトリファレンス ガイド』では、スキャナの設定、操作、メンテナンス、およびトラブルシューティングの一般的な方法について説明します。CS3000 シリーズ スキャナには次のモデルがあります。

- CS3000 - USB (バッチ)、0.5GB フラッシュ
- CS3070 - USB (バッチ) および Bluetooth、0.5GB フラッシュ

各スキャナには USB ホスト ケーブルが付属しています。スキャナを据え付け、充電、およびホストに接続するための充電クレードルもあります。

プロダクトリファレンス ガイド – ここから開始

この電子マニュアルの最終ページに移動し、印刷します。これはクイック スタートの手順です。この 1 ページに、ユーザーの皆様から寄せられる質問の 99% にあたる技術サポートに関する本文書内のリンクを掲載しています。

章の説明

このガイドは、次の章で構成されています。

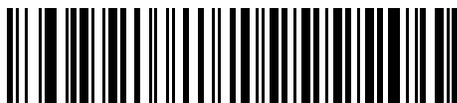
- **第 1 章の「ご使用の前に」**では、製品の概要およびスキャナの充電、接続、構成の方法を説明します。
- **第 2 章の「スキャン」**では、バーコードをスキャンし、データをホストに送信する方法と、ビープ音および LED の定義について説明します。
- **第 3 章の「ユーザ設定」**では、各ユーザー設定機能について説明し、スキャナのこれらの機能を選択するためのプログラミング バーコードを示します。また、ワイヤレス通信パラメータおよびデータをホスト デバイスに送信する方法をカスタマイズするとき一般的に利用されるバーコードも掲載しています。
- **第 4 章の「シンボル体系」**では、すべてのコード機能を説明し、その機能を選択するためのプログラミング バーコードを掲載します。
- **第 5 章の「メンテナンスおよび技術仕様」**では、スキャナのお手入れのしかた、トラブルシューティング、および技術的な仕様について説明します。

- **付録 A、標準のデフォルト設定パラメータ**は、すべてのホスト デバイスやその他のスキャナのデフォルト値の一覧です。
- **付録 B、プログラミング リファレンス** は、AIM コード ID、ASCII 変換、およびキーボードマップの一覧です。
- **付録 C、サンプル バーコード** では、サンプル バーコードを掲載しています。

表記規則

本書では、次の表記規則を使用しています。

- **斜体**は、次の項目の強調に使用します。
 - 本書および関連文書の章およびセクション
- **太字**は、次の項目の強調に使用します。
 - キーパッド上のキー名
 - 画面またはウィンドウ上のボタン名
- 中黒 (•) は、次を示します。
 - 実行する操作
 - 代替方法のリスト
 - 実行する必要があるが、順番どおりに実行しなくてもかまわない手順
- 順番どおりに実行する必要のある手順 (順を追った手順) は、番号付きのリストで示されます。
- 本章で説明するプログラミング バーコード メニューでは、デフォルトのパラメータ設定にアスタリスク (*) を付けています。



* はデフォルトを示す ——— * ボーレート 9600 ——— 機能 / オプション

✓ **注** このシンボルは、特別な関心事や重要事項を示します。注意を読まなくても、スキャナ、機器、またはデータに物理的な損害が生じるわけではありません。



注意 このシンボルが付いた情報を無視した場合、データまたは器具に損害が生じる場合があります。



警告! このシンボルが付いた情報を無視した場合、身体に深刻な傷害が生じる場合があります。

関連文書

- 『CS3000 シリーズ スキャナ クイック スタート ガイド』(p/n 72-136598-xx) では、基本的な設定および操作方法の説明を含む、ユーザーがスキャナの使用を開始するための一般的な情報を提供しています。

このガイドを含むすべてのガイドの最新版については、次の弊社 Web サイトをご覧ください：

<http://www.motorolasolutions.com/support>。

サービスに関する情報

本機器の使用中に問題が発生する場合は、お客様の使用環境を管理する技術サポートまたはシステム サポートにお問い合わせください。本機器に問題がある場合は、各地域の技術サポートまたはシステム サポートの担当者が、次のサイトに問い合わせを行います。 <http://www.motorolasolutions.com/support>。

Motorola Solutions サポートへのお問い合わせの際は、以下の情報をご用意ください。

- 装置のシリアル番号
- モデル番号または製品名
- ソフトウェアのタイプとバージョン番号

Motorola では、サービス契約で定められた期間内に電子メール、電話、またはファックスでお問い合わせに対応いたします。

Motorola Solutions サポートが問題を解決できない場合、修理のため装置をご返送いただくことがあります。その際に詳しい手順をご案内します。Motorola は、承認済みの梱包箱を使用せずに発生した搬送時の損傷について、その責任を負わないものとします。装置を不適切に移動すると、保証が無効になる場合があります。

ご使用のビジネス製品を Motorola ビジネス パートナーから購入された場合、サポートについては購入先のビジネス パートナーにお問い合わせください。

第1章 ご使用前に

はじめに

CS3000 シリーズ スキャナはさまざまな用途でバーコードを読み取って保存し、USB 接続または Bluetooth を通じてバーコード データをホストに転送します。

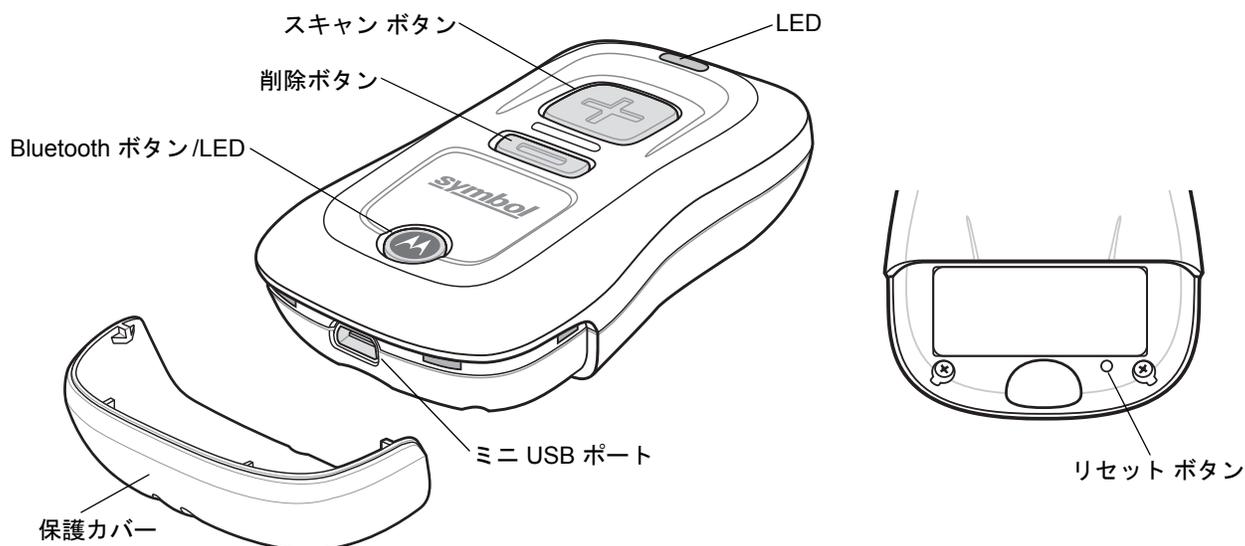


図 1-1 CS3000 シリーズ スキャナ

このスキャナは、以下のホスト インタフェースをサポートしています。

- USB - スキャナはクレードルまたは USB ケーブル経由で、取り外し可能ストレージ デバイスとして USB ホストに接続します。
- Bluetooth - このスキャナは、キーボードをエミュレートするホスト (デフォルト) への Bluetooth HID 接続だけでなく、スキャナがシリアル接続があるかのように動作するシリアル ポート プロファイル (SPP) 接続もサポートしています。

スキャナを開梱する

スキャナを箱から取り出し、破損している機器がないかどうかを確認します。配送中にスキャナが損傷した場合は、Motorola Solutions サポートまでご連絡ください。連絡先については、[xiii ページ](#)を参照してください。箱は、保管しておいてください。これは承認された梱包材です。修理のために機器を返送するときには必ずこれを使用してください。

クレードル

クレードルはデスクトップに置き、CS3000 シリーズ スキャナのスタンド、充電器、USB 通信デバイスとして使用します。スキャナを充電する場合でも、クレードルに別電源を用意する必要はありません。

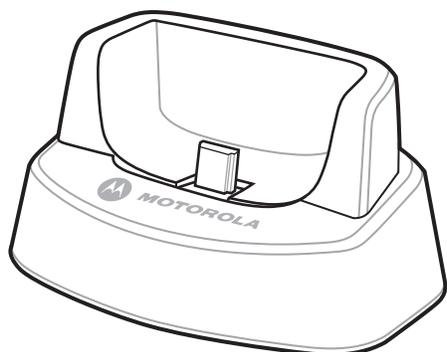


図 1-2 クレードル

クレードルの接続

クレードルのインタフェース ケーブルをホストの USB ポートに差し込みます。

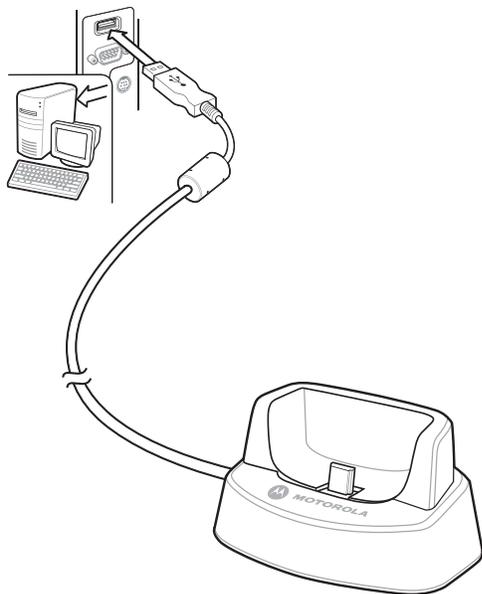


図 1-3 クレードルにケーブルを接続する

スキャナ バッテリーの充電

CS3000 シリーズ スキャナを充電するには、USB ホスト ケーブルまたは充電クレードルによってスキャナをホスト PC に接続します。電源は必要ありません。充電時間は、バッテリーが完全に放電している場合、およそ 3 時間です。

- ✓ **注** バッテリー充電状態をチェックするには、スキャン (+) ボタンを 15 秒間押し続けます。「**バッテリー充電状態**」の 2-3 ページの表 2-1 を参照してください。
- ✓ **注** 承認された Motorola Solutions 修理施設が、CS3000 のバッテリーを交換できます。バッテリーを充電しても不揮発メモリに保存されているバーコード データには影響を与えませんが、バッテリーを交換したり、バッテリーが完全に放電したりすると日付と時刻は失われます。

USB ホスト ケーブルによる充電

1. ホスト ケーブルのミニ USB コネクタをスキャナのインタフェース ポートに差し込みます。
2. ホスト ケーブルのもう一方のコネクタをホスト PC の USB ポートに接続します。

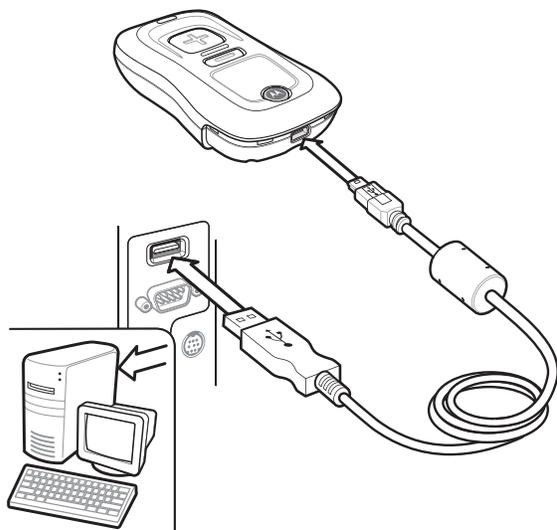


図 1-4 スキャナをホスト PC に接続する

スキャナの充電が始まります。完全に放電したバッテリーをフル充電するには、およそ 3 時間かかります。32° ~ 104°F (0° ~ 40°C) の推奨温度内で充電してください。

充電クレードルによる充電

1. クレードルの USB コネクタをホスト PC の USB ポートに差し込みます。

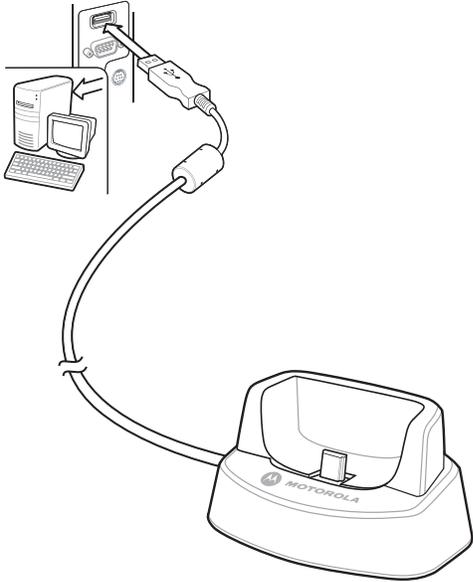


図 1-5 クレードルをホスト PC に接続する

2. スキャナから保護カバーを取り外します。
3. スキャナをクレードルの上に置きます。このとき、クレードルのミニ USB コネクタをスキャナのインタフェースポートに差し込みます。

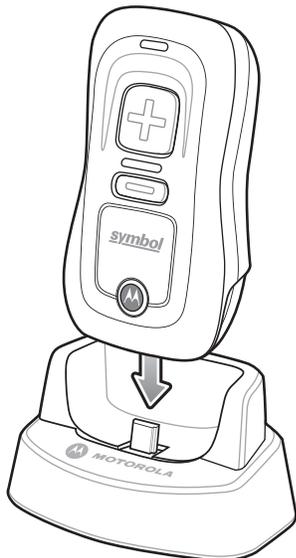


図 1-6 クレードルにスキャナを挿入する

スキャナの充電が始まります。完全に放電したバッテリーをフル充電するには、およそ 3 時間かかります。32° ~ 104°F (0° ~ 40°C) の推奨温度内で充電してください。

スキャナ充電 LED

スキャナの LED が点灯しているときは、充電中です (2-3 ページの表 2-1 を参照)。充電中は黄色の LED が点滅します。バッテリーがフル充電になると、スキャナの LED が緑色に点灯します。

ホスト コンピュータ への接続

バッチ接続

USB 経由でスキャナをホスト PC に接続する方法については、1-3 ページの「スキャナ バッテリーの充電」を参照してください。

- ✓ **注** バッチ スキャン モードにすると、スキャナを Bluetooth ホストにペアリングすることはできません (CS3070 モデルにのみ該当)。

Bluetooth 接続: 開発オプション

シリアル ポート プロファイル

この Bluetooth プロファイルはシリアル ケーブルをエミュレートして、一般的な制御信号を含む既存の RS-232 ベースのシリアル通信アプリケーションのための、単純実装されたワイヤレス交換を提供します。これは、ホストのキーボードまたはタッチ スクリーンからの誤ったキー ストロークがバーコード データ ストリームに入力されないため、望ましい通信プロファイル実装です。

ヒューマン インタフェース デバイスのエミュレーション

この Bluetooth プロファイルは、USB に定義されたヒューマン インタフェース デバイス プロトコルの軽量ラッパーです。Bluetooth スキャナから転送されたデータは、Bluetooth ホスト (スマートフォン、PC、など) へのキーボード入力として表示されます。

- ✓ **注** ウェッジ データは、入力フォーカスを持つアプリケーションに表示されます。

Bluetooth 接続の例

このセクションでは、以下の接続例を説明します。

- [「Motorola Droid X HID ペアリングの例」](#)
- [1-7 ページの「PC HID ペアリングの例」](#)
- [1-10 ページの「PC SPP ペアリングの例」](#)
- [1-13 ページの「Windows Mobile Device \(Motorola ES400\) HID ペアリングの例」](#)
- [1-17 ページの「Windows Mobile Device \(Motorola ES400\) SPP ペアリングの例」](#)
- [1-21 ページの「iPad のペアリングの例」](#)

概要

CS3070 をホスト デバイスとペアリングするときには、通常、CS3070 とホスト デバイスの両方にペアリング PIN を入力する必要があります。PIN を CS3070 に入力するには、[1-24 ページの「PIN 入力のための数値バーコード」](#)を使用します。ホスト デバイスには、PIN を入力するために必要なそのデバイスのデータ入力方法を使用します。

Motorola Droid X HID ペアリングの例

CS3070 スキャナの場合、HID により Motorola Droid X とペアリングするには、次の手順に従います。

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. Bluetooth ボタン (Motorola ロゴの付いた丸いボタン) を 5 秒間押し続けます。ピープ音が鳴って Bluetooth ボタンが速く点滅します。これは、スキャナがホストによって検出可能な状態にあることを示します。

✓ **注** HID は CS3070 のデフォルトのプロファイルです。これが変更された場合は、[3-13 ページの「Bluetooth HID プロファイル」](#)をスキャンします。

3. Droid X で設定ボタン (左下のハード ボタン) を押します。
4. 表示されたオプションのリストで **[Settings]** をタップします。
5. **[Wireless & networks]** をタップします。
6. **[Bluetooth]** をタップして Bluetooth を有効にします。
7. **[Bluetooth settings]** オプションをタップします。
8. **[Scan for devices]** をタップします。CS3070 が **[Bluetooth devices]** リストに表示され、モデル名とシリアル番号で示されます。
9. 一覧から CS3070 を選択します。ウィンドウに PIN のプロンプトが表示されます。
10. テキスト ボックスをタップしてソフト キーボードを開きます。キーボードを使用して PIN を入力し、**[OK]** をタップします。
11. CS3070 で [1-24 ページの「PIN 入力のための数値バーコード」](#)を使用して PIN をスキャンし、さらに **Enter** をスキャンします。スキャナでピープ音が鳴り、Droid とのペアリングが完了したことを示し、Droid では **[Connected to hid]** が CS3070 デバイス名の下に表示されます。

スキャン済みデータを Droid で表示するには、次の手順に従います。

1. 画面をタップし続け、**[Add to Home screen]** メニューを表示します。
2. **[Motorola widgets]** を選択します。
3. メニューを下方方向にスクロールし、**[Sticky Note]** を選択します。
4. **[Sticky Note]** をタップしてテキスト入力画面を表示します。
5. テキスト入力フィールドをタップして、バーコードをスキャンします。バーコードの内容がテキスト入力フィールドに表示されます。

PC HID ペアリングの例

CS3070 スキャナでは、Bluetooth 対応 PC またはラップトップに HID 経由でペアリングするには、次の手順に従います。

✓ **注** ホストが Bluetooth 通信をサポートしていない場合は、サードパーティ製の Bluetooth アダプタが必要です。

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. Bluetooth ボタン (Motorola ロゴの付いた丸いボタン) を 5 秒間押し続けます。ピープ音が鳴って Bluetooth ボタンが速く点滅します。これは、スキャナがホストによって検出可能な状態にあることを示します。

✓ **注** HID は CS3070 のデフォルトのプロファイルです。これが変更された場合は、[3-13 ページの「Bluetooth HID プロファイル」](#) をスキャンします。

3. ホスト PC でサードパーティ製 Bluetooth ペアリング アプリケーションを起動します。以下はそういったアプリケーションのサンプル ウィンドウです。



図 1-7 サンプルの Bluetooth アプリケーション ウィンドウ

- アプリケーションを Bluetooth デバイス検索モード (この例では、チェック ボックスをオンにする) にして [Next] をクリックします。

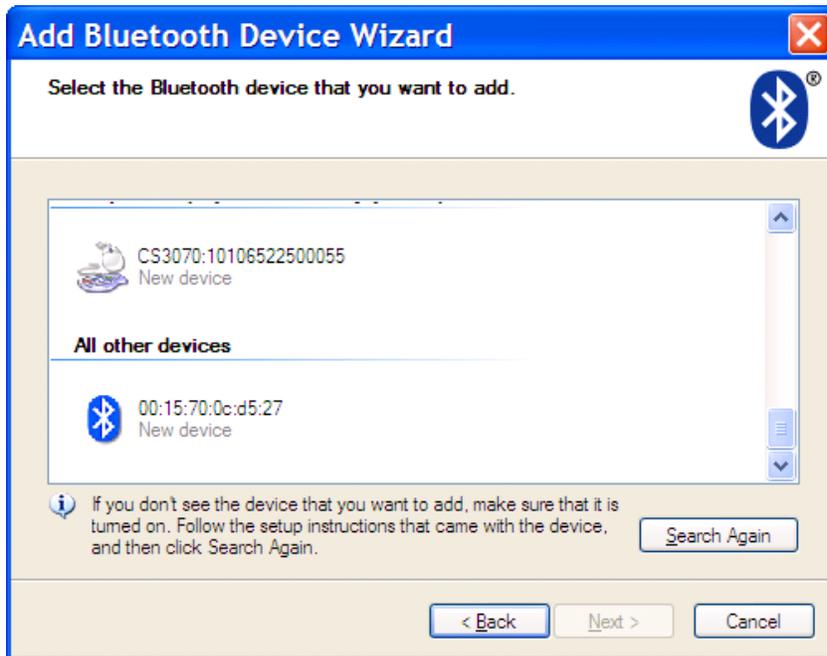


図 1-8 サンプルのデバイス検索ウィンドウ

- 検出されたデバイスの一覧から CS3070 デバイスを選択します。Bluetooth アプリケーションによっては、自動的に生成されたパスキー (PIN) を作成してスキャンするよう求められる場合があります。



図 1-9 サンプルのパスキー オプション ウィンドウ

6. オプションを選択し、[Next] をクリックします。
 - [Choose a passkey for me] を選択した場合、ホストでパスキーが生成されて表示されます。
 - [Use the passkey found in the documentation] を選択した場合は、デフォルトの **1234** を入力します。
 - [Let me choose my own passkey] を選択した場合は、任意のパスキーを入力します。
7. パスキーに対応する **1-24 ページの「PIN 入力のための数値バーコード」** をスキャンし、次に **Enter** バーコードをスキャンします。



図 1-10 サンプルの Bluetooth ペアリング完了ウィンドウ

8. **[Finish]** をクリックしてペアリングを完了します。デバイスが **[Bluetooth Devices]** ウィンドウに表示されます。

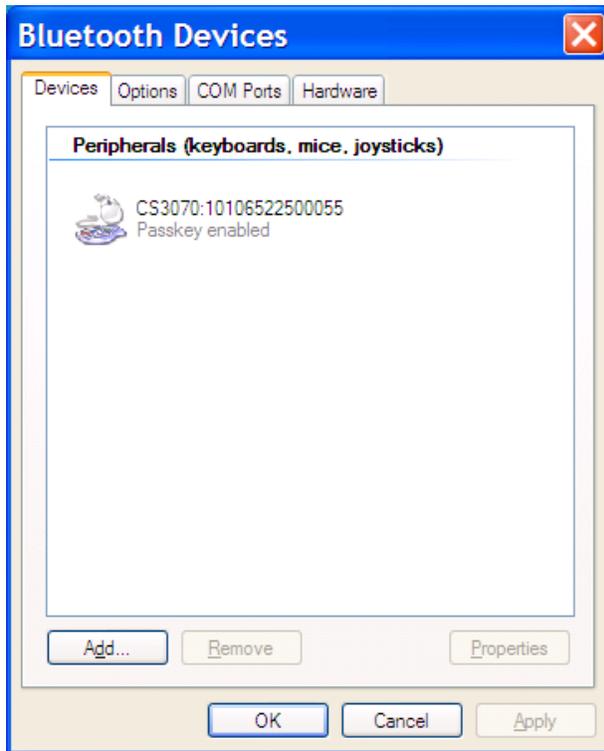


図 1-11 Bluetooth デバイス ウィンドウ

9. デバイスを選択してから **[Add...]** をクリックします。CS3070 では 2 つの音程のビーブ音が鳴り、Bluetooth ボタンがゆっくり点滅して、スキャナとホストとのペアリングが完了したことを示します。

✓ **注** Bluetooth のペアリングは、USB ケーブルによる充電中には一時的に中断されます。ケーブルを外すと再びペアリングが自動的に確立されます。

PC SPP ペアリングの例

CS3070 スキャナでは、Bluetooth 対応 PC またはラップトップに SPP 経由でペアリングするには、次の手順に従います。

✓ **注** ホストが Bluetooth 通信をサポートしていない場合は、サードパーティ製の Bluetooth アダプタが必要です。

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. [3-13 ページの「Bluetooth シリアルポート プロファイル \(SPP\)」](#) をスキャンします。Bluetooth ボタンが速く点滅し始めます。これは、スキャナがホストによって検出可能な状態にあることを示します。

3. ホスト PC でサードパーティ製 Bluetooth ペ어링 アプリケーションを起動します。以下はこれに該当するアプリケーションのサンプル ウィンドウです。



図 1-12 サンプルの Bluetooth アプリケーション ウィンドウ

4. アプリケーションを Bluetooth デバイス検索モード (この例では、チェック ボックスをオンにする) にして [Next] をクリックします。



図 1-13 サンプルのデバイス検索ウィンドウ

5. 検出されたデバイスの一覧から CS3070 デバイスを選択します。Bluetooth アプリケーションによっては、自動的に生成されたパスキー (PIN) を作成してスキャンするよう求められる場合があります。



図 1-14 サンプルのパスキー オプション ウィンドウ

6. SPP で **[Use the passkey found in the documentation]** を選択し、次にパスキーの **1234** をテキストボックスに入力します。**[Next]** をクリックします。



図 1-15 サンプルの Bluetooth ペアリング完了ウィンドウ

- ✓ **注** SPP では、ホストに PIN を入力する必要がありますが、CS3070 には PIN を入力する必要はありません。

7. **[Finish]** をクリックします。ペアリングを完了するには、HyperTerminal などのシリアル入力アプリケーションを開きます。CS3070 では 2 つの音程のビーブ音が鳴り、Bluetooth ボタンがゆっくり点滅して、スキャナとホストとのペアリングが完了したことを示します。

✓ **注** Bluetooth のペアリングは、USB ケーブルによる充電中には一時的に中断されます。ケーブルを外すと再びペアリングが自動的に確立されます。

Windows Mobile Device (Motorola ES400) HID ペアリングの例

Motorola ES400 Windows Mobile 6.5 デバイスを HID 経由でペアリングするには、次の手順に従います。

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. Bluetooth ボタン (Motorola ロゴの付いた丸いボタン) を 5 秒間押し続けます。ビーブ音が鳴って Bluetooth ボタンが速く点滅します。これは、スキャナが Motorola ES400 によって検出可能な状態にあることを示します。

✓ **注** HID は CS3070 のデフォルトのプロファイルです。これが変更された場合は、[3-13 ページの「Bluetooth HID プロファイル」](#) をスキャンします。

3. ES400 でサードパーティ製 Bluetooth ペアリング アプリケーションを起動します。以下はそういったアプリケーションのサンプル ウィンドウです。



図 1-16 サンプルの Bluetooth アプリケーション - デバイスの追加ウィンドウ

4. **[Add new device...]** をタップします。ES400 は Bluetooth デバイスを検索します。

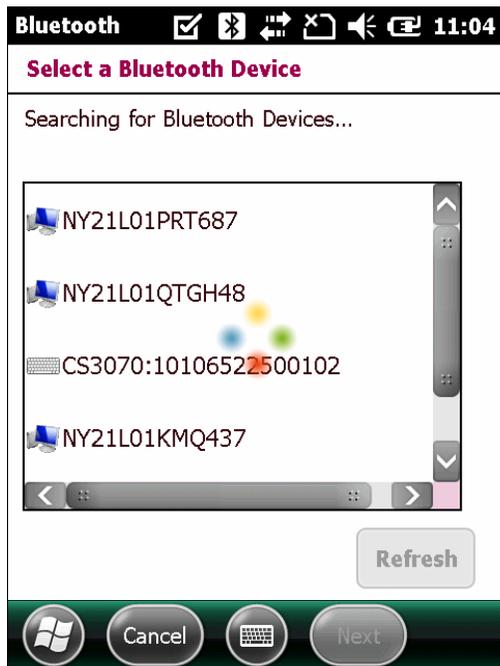


図 1-17 サンプルのデバイス検索ウィンドウ

5. 検出されたデバイスのリストから CS3070 デバイスを選択し、**[Next]** をタップします。デバイスでパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

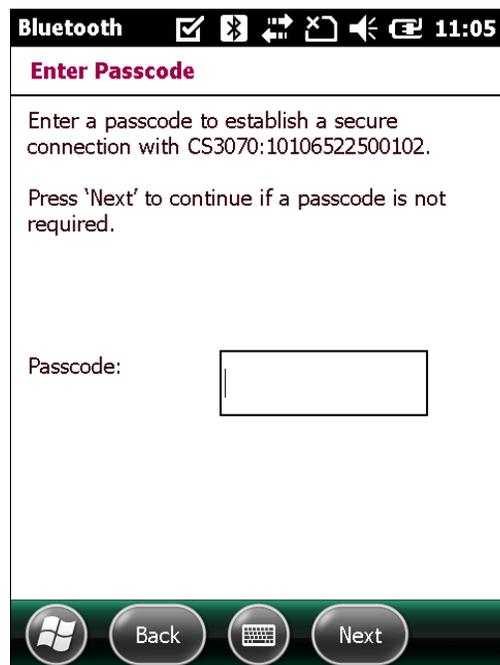


図 1-18 パスコードの入カウィンドウ

6. パスコードが必要ないときは **[Next]** をタップするか、任意のパスワードを入力して **[Next]** をタップします。

- ステップ 6 でパスコードを入力した場合は、そのコードに対応する 1-24 ページの「PIN 入力のための数値バーコード」をスキャンし、次に Enter バーコードをスキャンします。

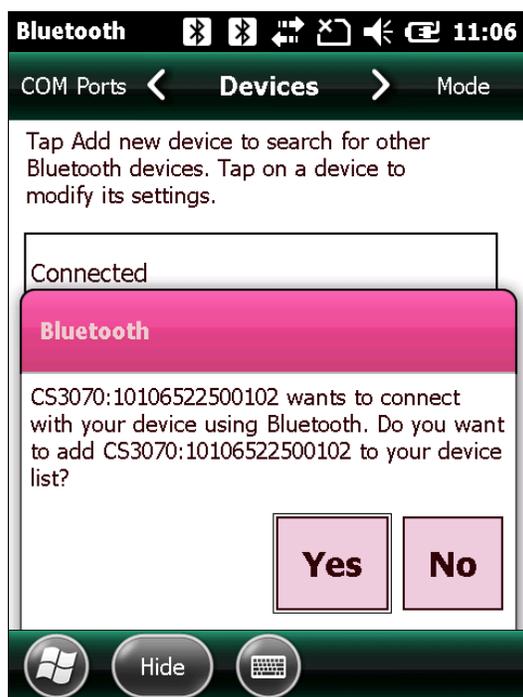


図 1-19 接続検証ウィンドウ

- ポップアップ ウィンドウで [Yes] を選択し、デバイス リストにデバイスを追加します。



図 1-20 検出されたデバイス リスト

9. デバイスを選択し、**[Connect]** をタップしてペアリングを完了します。デバイスが **[Connected]** リストに表示され、CS3070 では 2 つの音程のビーブ音が鳴り、Bluetooth ボタンがゆっくり点滅して、スキャナとホストとのペアリングが完了したことを示します。



図 1-21 検出されたデバイス リスト

- ✓ **注** Bluetooth のペアリングは、USB ケーブルによる充電中には一時的に中断されます。ケーブルを外すと再びペアリングが自動的に確立されます。

Windows Mobile Device (Motorola ES400) SPP ペアリングの例

CS3070 スキャナでは、Motorola ES400 Windows Mobile 6.5 デバイスと SPP 経由でペアリングするには、次の手順に従います。

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. [3-13 ページの「Bluetooth シリアル ポート プロファイル \(SPP\)」](#) をスキャンします。Bluetooth ボタンが速く点滅し始めます。これは、スキャナが ES400 によって検出可能な状態にあることを示します。
3. ES400 でサードパーティ製 Bluetooth ペアリング アプリケーションを起動します。以下はこれに該当するアプリケーションのサンプル ウィンドウです。



図 1-22 サンプルの Bluetooth アプリケーション ウィンドウ - デバイスの追加ウィンドウ

4. **[Add new device...]** をタップします。ES400 は Bluetooth デバイスを検索します。

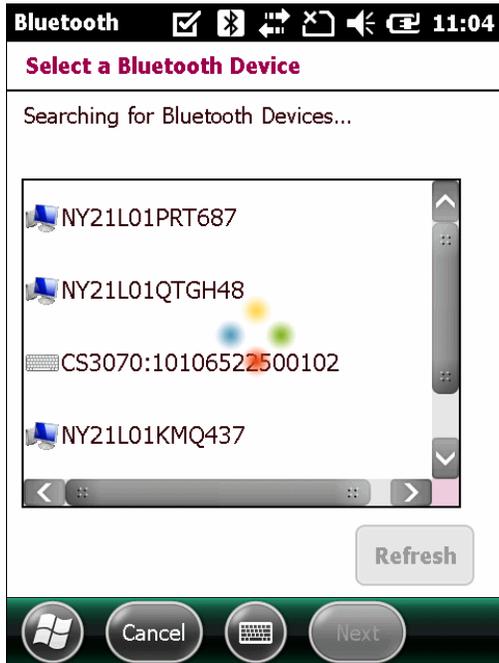


図 1-23 サンプルのデバイス検索ウィンドウ

5. 検出されたデバイスのリストから CS3070 デバイスを選択し、**[Next]** をタップします。デバイスでパスコードをの入れを求めるプロンプトが表示されます。

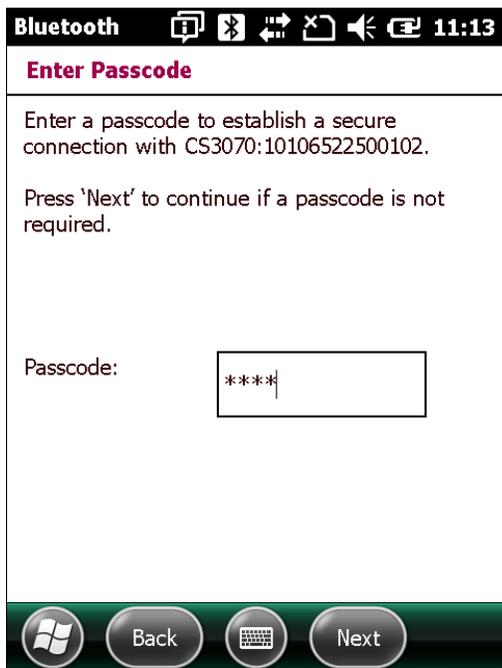


図 1-24 サンプルのパスコード入力ウィンドウ

6. CS3070 のデフォルトの PIN (1234) を入力し、[Next] をタップします。

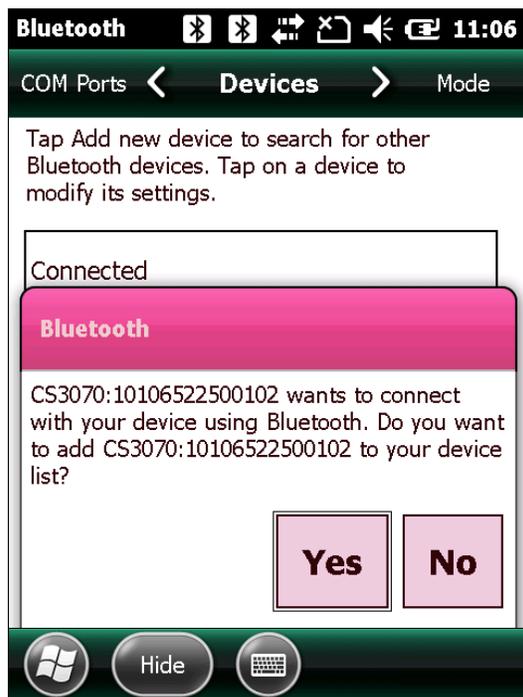


図 1-25 接続検証ウィンドウ

- ✓ **注** SPP の場合、ホスト PC での PIN の入力が必要ですが、CS3070 デバイス側では PIN を入力する必要はありません。

7. ポップアップ ウィンドウで [Yes] を選択し、デバイス リストにデバイスを追加します。



図 1-26 検出されたデバイス リスト

8. デバイスを選択して、[Connect] をタップします。[Partnership Settings] ウィンドウが表示されます。

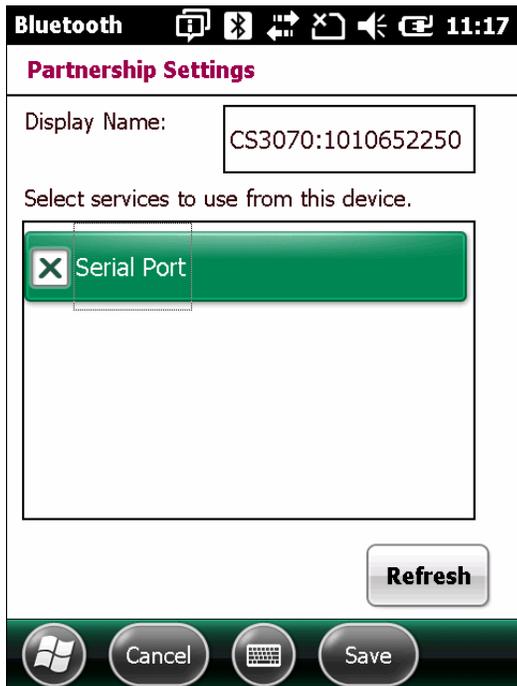


図 1-27 パートナーシップの設定ウィンドウ

9. [Serial Port] をタップしてから [Save] をタップして、ペアリングを完了します。デバイスが [Connected] リストに表示され、CS3070 では 2 つの音程のビーブ音が鳴り、Bluetooth ボタンがゆっくり点滅して、スキャナと ES400 とのペアリングが完了したことを示します。

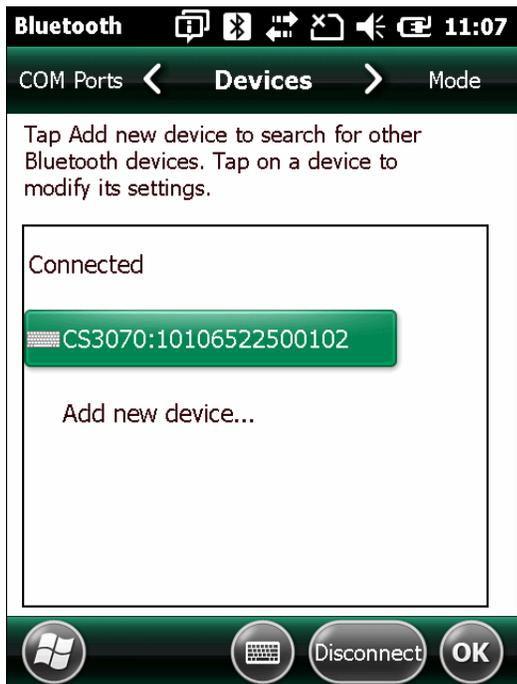


図 1-28 検出されたデバイス リスト

- ✓ **注** Bluetooth のペアリングは、USB ケーブルによる充電中には一時的に中断されます。ケーブルを外すと再びペアリングが自動的に確立されます。

iPad のペアリングの例

CS3070 スキャナで iPad とペアリングするには、次の手順に従います。

1. スキャン ボタン (+) を押してスキャナをウェイクアップします。
2. Bluetooth ボタン (Motorola ロゴの付いた丸いボタン) を 5 秒間押し続けます。ピープ音が鳴って Bluetooth ボタンが速く点滅します。これは、スキャナがホストによって検出可能な状態にあることを示します。

✓ **注** HID は CS3070 のデフォルトのプロファイルです。これが変更された場合は、[3-13 ページの「Bluetooth HID プロファイル」](#) をスキャンします。

3. iPad で **[Settings]**  アイコンをタップします。

4. **[General]** を表示されたオプションのリストでタップします。

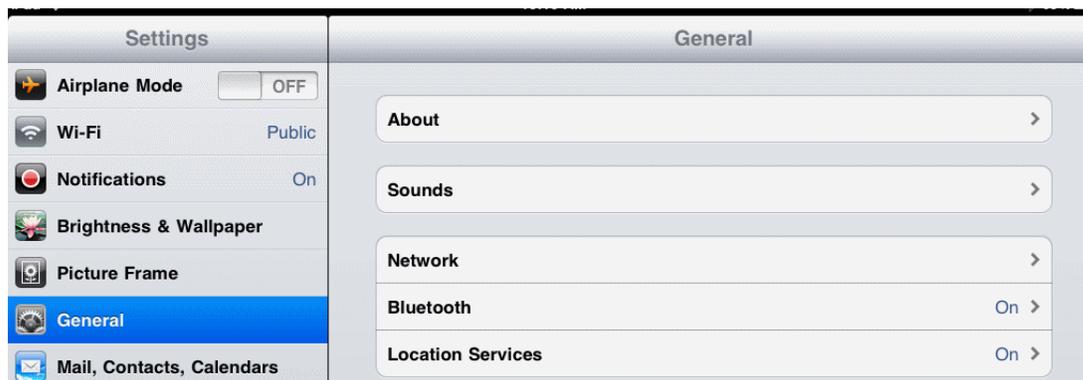


図 1-29 一般メニュー

5. **[Bluetooth]** をタップします。Bluetooth が有効になっていない場合は、スワイプして有効にします。CS3070 が **[Devices]** リストに表示され、モデル名とシリアル番号で示されます。



図 1-30 Bluetooth 機器

6. 一覧から CS3070 を選択します。iPad で生成された PIN を求めるプロンプトがウィンドウに表示されます。



図 1-31 PIN のプロンプト

7. CS3070 で 1-24 ページの「PIN 入力のための数値バーコード」を使用して PIN をスキャンし、さらに **Enter** をスキャンします。スキャナでビーブ音が鳴り、iPad とのペアリングが完了したことを示し、iPad では **[Connected]** が CS3070 デバイス名の横に表示されます。

スキャン済みデータを iPad で表示するには、次の手順に従います。

1. **[Notes]** アイコンをタップして、 **[Notes]** テキスト入力画面を表示します。

2. バーコードをスキャンします。バーコードの内容が **[Note]** に表示されます。

✓ **注** スキャンしたデータでキーボード データを入力するには、CS3070 の削除キー (-) を押し、iPad でキーボードを呼び出します。このキーを再度押しと、キーボードがオフになります。

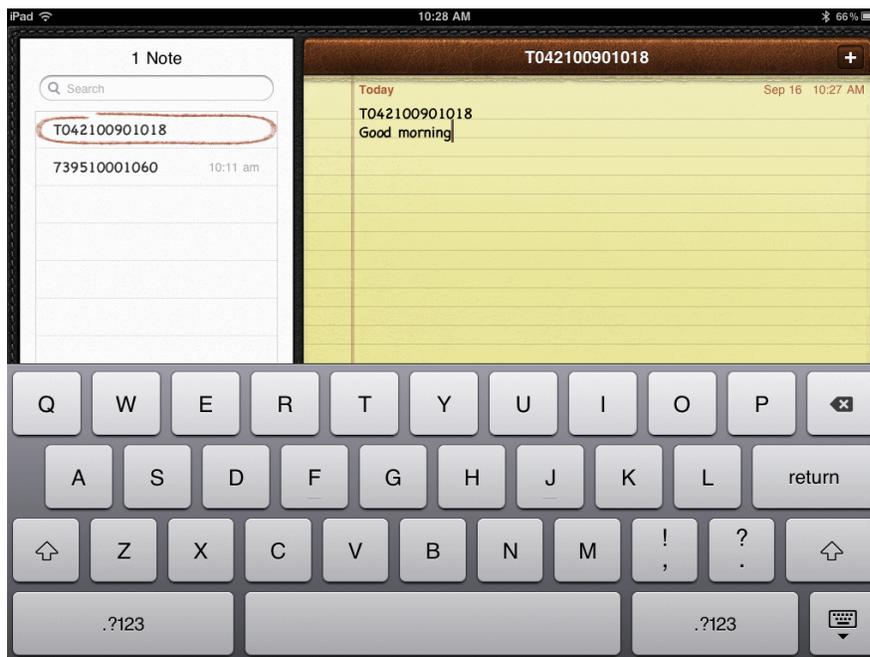


図 1-32 キーボードによるメモ

ペアリングの解除

一時的にスキャナとホストのペアリングを解除するには、Bluetooth ボタンを押します。これにより、Bluetooth が無効になって Bluetooth ボタンの点滅が停止します。再度 Bluetooth ボタンを押すと、スキャナとホストが再ペアリングされます。

スキャナとホストのペアリングを永続的に解除するには、[3-13 ページの「ペアリングの解除」](#)をスキャンします。これにより、スキャナは別のホスト デバイスとのペアリングが可能になります。

✓ **注** バッチスキャンモードにすると、スキャナを Bluetooth ホストにペアリングすることはできません (CS3070 モデルにのみ該当)。

デバイス リストから CS3070 を削除する

検出されたデバイス リストからデバイスを削除するには、デバイスをタップし続け、**[Delete]** を選択します。

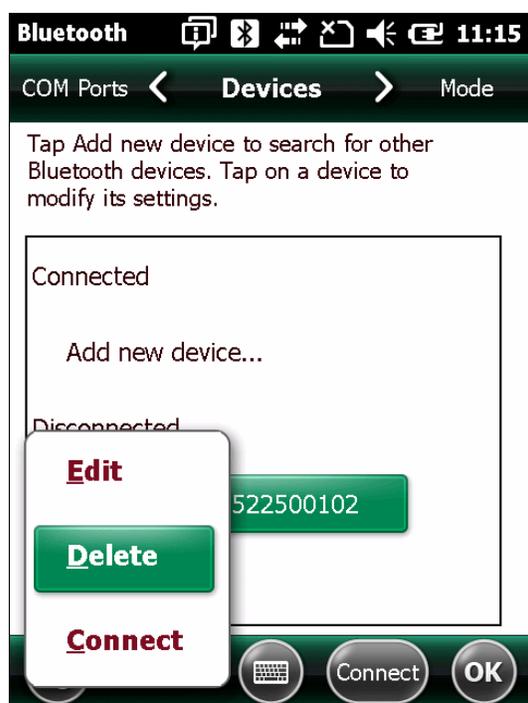


図 1-33 デバイスの削除

PIN 入力のための数値バーコード

Bluetooth 接続には、PIN 入力用の以下のバーコードを使用します。



スキャナの構成

初めて使用するためにスキャナを構成するには、次の手順に従います。

1. 第3章の「ユーザ設定」および第4章の「シンボル体系」のパラメータ バーコードをスキャンし、スキャナ操作をカスタマイズします。
2. 3-22 ページの「設定の保存バーコード」(以下にも掲載) をスキャンします。

✓ 注 パラメータ バーコードをスキャンするときは、前のバーコードをスキャンしてから2分以内に次のバーコードをスキャンしてください。2分間操作がないとスキャナはスリープモードになり、スキャンしたバーコードおよび保存していないバーコードは無視されます。



設定の保存

3. さらにカスタマイズするには、1-26 ページの「構成ファイルの編集」にあるオプションを使用して、スキャナの Config.ini ファイルを編集します。
4. CS3070 のみ: 新しい構成を複数のスキャナに展開する際には、ホストの検索ウィンドウに固有の CS3070 シリアル番号を表示させるために、Config.ini ファイルを編集して、BTName エントリを削除するか、空白に設定 ("BTName=") し、各スキャナがデフォルトの CS3070:<シリアル番号> の BT 名を使用するようにします。

複数スキャナのステージング

全ての必要な設定が行われた1台の「ゴールデン」スキャナの config.ini ファイルを作成したら、このスキャナからファイルのコピーを作成し、USB 接続で他のスキャナにコピーします。3-5 ページの「日付と時刻の設定」のバーコードをスキャンし、「クローン作成された」スキャナで時刻と日付を設定します。

✓ 注 CS3070 のみ: 新しい構成を複数のスキャナに展開する際には、ホストの検索ウィンドウに固有の CS3070 シリアル番号を表示させるために、Config.ini ファイルを編集して BTName エントリを削除するか、空白に設定 ("BTName=") して、各スキャナがデフォルトの CS3070:<シリアル番号> の BT 名を使用するようにします。

注 Config.ini ファイルを複数のスキャナに展開する前に、ユーザが [Save Configuration] または 3-4 ページの「工場出荷時の状態に戻す」をスキャンしたときにファイルを上書きしてしまわないように、ファイルを読み取り専用設定に設定します。

構成ファイルの編集

メモ帳などのテキスト エディタを使用し、CS30XX の \Parameters フォルダにある編集可能な **Config.ini** テキスト ファイルに構成値を設定します。表 1-1 では、ファイルのプログラム可能な内容を一覧表示しています。

- ✓ **注** **Config.ini** ファイルの編集時に誤った場合、\Parameters フォルダに LOG.TXT というファイルが作成されます。このログ ファイルを確認してエラーを判別し、修正してください。

表 1-1 Config.ini ファイルの内容

パラメータ	値	説明	デフォルト
BarcodeFile	文字列	バッチ モードでは、スキャンしたバーコードを含むバッチ ファイルの名前です。	BARCODES.TXT
BarcodeDB	文字列	バーコード データベースのファイル名。データベース ファイルが存在する場合、スキャンされたバーコードはその内容に対してチェックされます。バーコードがデータベース内に存在する場合、スキャナは高いピープ音を鳴らし、存在しない場合は低いピープ音を鳴らします。このモードを利用するには、CS30XX に BarcodeDB.txt ファイルを作成します。このモードを利用している場合、バーコード データはスキャナに保存されないので注意してください。	DBASE.TXT
BTPin	文字列	デフォルトの SPP PIN。	1234
BTName	文字列	検索中に使用される Bluetooth デバイス名 (アドレス)。	CS3070:<シリアル番号>
BTProfile	HID SPP	選択した BT プロファイル。	HID
Mute	On Off	ピープ音をミュートします。	Off
Prefix	キャラクタ	プリフィックス キャラクタ。	<なし>
Suffix	キャラクタ	サフィックス キャラクタ。	0x0D (CR)
Separator	キャラクタ	区切り文字。	','
DateFormat	MM/DD/YY DD/MM/YY MM/DD/YYYY DD/MM/YYYY	バッチ データの日付形式。日付スタンプを有効にする場合に設定します。日付の設定については、 3-5 ページの「日付の設定」 を参照してください。 日付スタンプを無効にするには、値を入力しません。たとえば、次のとおりです。“DateFormat = “	MM/DD/YY (Enabled)

表 1-1 Config.ini ファイルの内容 (続き)

パラメータ	値	説明	デフォルト
TimeFormat	12h 24h	バッチ データの時刻形式。時刻スタンプを有効にする場合に設定します。時刻の設定については、 3-5 ページの「時刻の設定」 を参照してください。 時刻スタンプを無効にするには、値を入力しません。たとえば、次のとおりです。“TimeFormat = “	24h (Enabled)
ScanParam	変数	任意のスキャン エンジン パラメータ。複数エントリが可能です。リセット後またはエンジンに電源が供給されると送信されます。 例： ScanParam=0xf0,0x00,0x01 ScanParam=0xee,0x01 ScanParam=0x38,0x00	<なし>
Sleep	整数	操作が検出されないとき、スキャナがスリープ モードになるまでの秒数です。	120 (2 分)
BTSleep	整数	操作が検出されないとき、スキャナが別の Bluetooth デバイスとペアリングする間にスリープ モードになるまでの秒数です。	600 (10 分)
ButtonPlus	Enabled Disabled	プラス ボタンを有効または無効にします。	Enabled
ButtonMinus	Enabled Disabled	マイナス ボタンを有効または無効にします。	Enabled
ButtonBT	Enabled Disabled	BT ボタンを有効または無効にします。	Enabled
WakeUpLED	Enabled Disabled	ウェイクアップ LED を有効または無効にします。	Enabled
LEDBlue	Enabled Disabled	通常操作およびウェイクアップに対して青色の LED を有効または無効にします。	Enabled
LEDGreen	Enabled Disabled	通常操作およびウェイクアップに対して緑色の LED を有効または無効にします。	Enabled
LEDRed	Enabled Disabled	通常操作およびウェイクアップに対して赤色の LED を有効または無効にします。	Enabled

表 1-1 Config.ini ファイルの内容 (続き)

パラメータ	値	説明	デフォルト
LEDAmber	Enabled Disabled	通常操作およびウェイクアップに対して黄色の LED を有効または無効にします。	Enabled
CodeID	Enabled Disabled	CodeID のスキャン済みバーコードファイルへの保存を有効または無効にします。 B-1 ページの「コードタイプ ID」 を参照してください。	Enabled
ScanLED	Enabled Disabled	レーザー スキャナがアクティブなときに点灯する LED を有効または無効にします。	Enabled

第2章 スキャン

はじめに

この章では、バーコードをスキャンしてホストにデータを送信する手順について説明します。ビープ音とLEDの定義についても説明しています。

スキャン

スキャナの設置およびプログラミングについては、[第1章の「ご使用前に」](#)を参照してください。スキャンを行うには、次の手順に従います。

1. スキャナをバーコードに向けます。
2. スキャン (+) ボタンを押します。

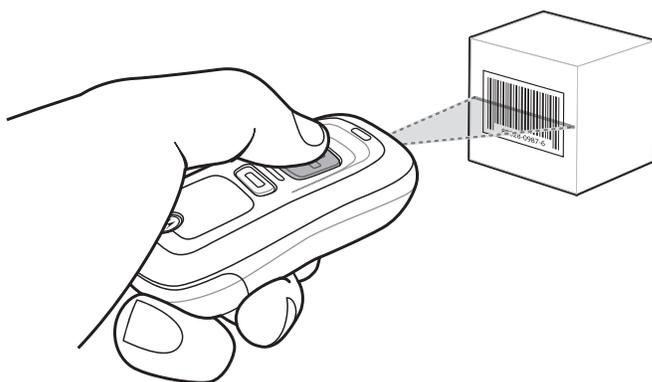
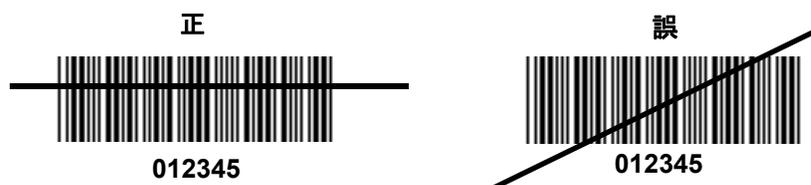


図2-1 スキャン

3. スキャンラインがシンボルのすべてのバーとスペースを横切るようにします。



4. 正しく読み取れた場合は、ビープ音が鳴って LED が緑色に点灯します。ビープ音と LED の定義については、[表 2-1](#) および [表 2-2](#) を参照してください。

✓ **注** USB ホスト ケーブルを使用してスキャナをホストに接続している場合は、バーコードをスキャンできません。

バーコードの削除

バッチ モードでバーコードを削除するには、スキャナを目的のバーコードに向けて削除 (-) ボタンを押します。

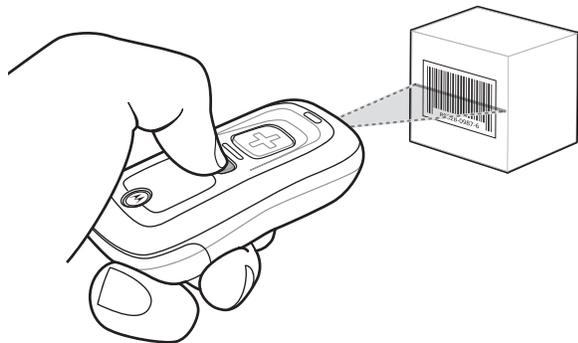


図 2-2 バッチ モードでのバーコードの削除

✓ **注** Bluetooth モードでバーコードを削除することはできません。

バーコード データのホストへの転送

バッチ スキャナからのデータの転送

読み取ったバーコード データは、スキャナの **Scanned Barcodes** ディレクトリにある **BarcodeFile.txt** ファイルに保存されます。USB ホスト ケーブルまたは充電クレードルを使用してスキャナをホスト PC に接続し、Windows エクスプローラでスキャナのディレクトリに移動します。バーコード データ ファイルをホストにコピーします。

バーコード データをクリアするには、スキャナから **BarcodeFile.txt** ファイルを削除するか、[3-7 ページ](#)に掲載されているデータのクリア バーコードをスキャンします。

自動実行機能

スキャナでは自動実行機能がサポートされており、ユーザは独自に **autorun.inf** ファイルを作成してホストへの接続時に自動的にデータをコピーできます。**autorun.inf** はテキストベースの設定ファイルであり、スキャナ接続時にホスト上でどの実行可能ファイルまたはアプリケーションを実行するか、どのアイコンでスキャナを表すか、Windows エクスプローラからスキャナ アイコンを右クリックしたときにどのメニュー コマンドを表示するかを定義します。詳細については、任意の検索エンジンで **autorun.inf** を検索してください。

無線スキャナからのデータの転送

スキャナが Bluetooth 経由でホストとペアリングされているとき、データはスキャンが完了するごとにホストに転送され、デバイス上に保存されることはありません。

エリア外の動作

スキャナがホストのエリア外に移動し、タイムアウト期間内にホストと再ペアリングされない場合、スキャンしたデータは失われ、エラーのビープ音が3回鳴ります。

無線の接続が失われると、Bluetooth LED のゆっくりとした等間隔の点滅が停止し、短い高音-低音のビープ音が鳴ります。デバイスがホストとのペアリングを再接続しようとしている間、Bluetooth LED は一定時間、速めに点滅し、エリア内に戻ってくると再ペアリングされます。再ペアリングが正常に完了しなかった場合、Bluetooth LED の点滅は停止します。

デバイスがエリア内に戻ったときに手動でペアリングを再確立するには、Bluetooth LED ボタンを押します。Bluetooth のペアリング時には、短い低音-高音のビープ音が鳴り、Bluetooth LED で再び、ゆっくりとした等間隔の点滅が始まります。

ユーザインタフェースの定義

スキャナは、ビープ音と LED の組み合わせでさまざまなシステム イベントを示します。表 2-1 および 表 2-2 では、そのような組み合わせとイベントを定義しています。

LED の意味

表 2-1 LED の意味

実行した機能	ユーザの操作	LED からのフィードバック	その他
スキャンの試行	スキャン (+) ボタンを押す	緑色の点滅	レーザ オン
バーコードの正常なスキャン		緑色の点灯	レーザ オフ
バッテリー充電状態	スキャン (+) ボタンを 15 秒間押し続ける	緑色の点滅	フル充電 (1 分あたり 6 回のスキャンで 8 時間動作可能)
		黄色の点滅	残り動作時間 1 時間以上 8 時間未満
		赤色の点滅	残り動作時間 1 時間未満
バーコードの削除 (バッチ モードの場合)	削除 (-) ボタンを押し続ける	黄色の点滅	レーザ オン
バーコードの正常な削除		黄色の点灯	レーザ オフ
削除の失敗 - アイテムが存在しない (バッチ モードの場合)		赤色の点灯	レーザ オフ
すべてのバーコード データのクリア (削除 (-) ボタンが有効な場合)	スキャン時間を越えて 3 秒間削除 (-) ボタンを押し続ける	黄色の点滅	レーザ オン
すべてを正常にクリア		黄色の点灯	レーザ オフ

表 2-1 LED の意味 (続き)

実行した機能	ユーザの操作	LED からのフィードバック	その他
スキャナの充電	スキャナをホスト PC の USB ポートに接続する	黄色の点滅	スキャナはマスマストレージモードで接続され、PC の自動実行アプリケーションが起動
充電完了		緑色の点灯	
データ保護のオンとオフを切り替える (有効な場合)	スキャン (+) ボタンと削除 (-) ボタンを同時に 6 秒間押し続ける	なし	
データ保護設定が正常に完了		黄色の点灯	
Bluetooth 無線通信を有効にする	Bluetooth ボタンを 5 秒間押し続ける	青色の LED が速く点滅	Bluetooth は有効だがホストとペアリングされていない
Bluetooth 無線のペアリング	Bluetooth ボタンを押す	青色の LED がゆっくり点滅	
Bluetooth 無線がホストとペアリングされていてエリア内にある		青色の LED が非常にゆっくり点滅	
Bluetooth 無線がホストのエリア外にある		青色の LED が消灯	ビーコンの送信を停止
Bluetooth 無線がホストの通信エリアに戻る	任意のボタンを押す	青色の LED が非常にゆっくり点滅	デバイスをホストと再ペアリング
特殊な場合			
低メモリスキャン	スキャン (+) ボタンを押し続ける	赤色に点滅してから通常の動作	
すべてを削除/クリア	削除 (-) ボタンを押し続ける	通常の動作	
メモリ フル スキャン	スキャン (+) ボタンを押し続ける	赤色の点灯	
メモリ フル削除/すべてクリア	削除 (-) ボタンを押し続ける	通常の動作	
バッテリー残量低の表示 - スキャン削除/すべてクリア			
有効な場合	通常の動作	赤色に点灯してから通常の動作	
有効だがパフォーマンスが無効の場合	通常の動作	3 秒間赤色に点灯	読み取りまたはアップロードなし
無効だがパフォーマンスが有効の場合	通常の動作	通常の動作	
無効でパフォーマンスも無効の場合	通常の動作	なし	読み取りまたはアップロードなし

表 2-1 LED の意味 (続き)

実行した機能	ユーザの操作	LED からのフィードバック	その他
データ保護 (有効化されていてオン)	スキャン / 機能 / ホスト通信	赤色に速く点滅	
予期せぬ障害	スキャン / 機能 / ドック	赤色、緑色、黄色に 5 秒間点滅	サポートに連絡
バッテリーが完全に放電している	スキャン / 機能 / ドック	なし	

ビープ音の意味

表 2-2 ビープ音の意味

実行した機能	ビープ音からのフィードバック	その他
バーコードの正常なスキャン	短い高音	レーザ オフ
バーコードの正常な削除	短い中音	レーザ オフ
削除の失敗 - アイテムが存在しない (バッチ モードの場合)	長音 - 短音 - 短音	レーザ オフ
すべてを正常にクリア	2 回の長い中音	レーザ オフ
データ保護設定が正常に完了	短音 - 長音 - 短音	
スキャナをホスト PC の USB ポートに接続し、スキャナを充電する	低音 - 高音	
Bluetooth 無線通信を有効にする	短いビープ音	Bluetooth ボタンを 5 秒間押し続ける
Bluetooth 無線のペアリング	短い低音 - 高音	
Bluetooth 無線がホストのエリア外にある	短い高音 - 低音	ビーコンの送信を停止
Bluetooth 無線がホストの通信エリアに戻る	短い低音 - 高音	デバイスをホストと再ペアリング
Bluetooth 無線エリア外のとときにスキャンを試行	4 回の高音	Bluetooth による転送なし
メモリ フル スキャン	長い音が 5 秒間またはスキャン ボタンを放すまで発生	

第3章 ユーザ設定

はじめに

この章では、各ユーザ設定機能について説明し、スキャナのこれらの機能を選択するためのプログラミングバーコードを示します。

スキャナは、3-2 ページの「**ユーザ設定のデフォルト一覧**」に示す設定で出荷されます (すべてのホスト デバイスと、スキャナのその他のデフォルト設定については、付録 A、**標準のデフォルト設定パラメータ**を参照してください)。デフォルト値が要件に適合している場合、プログラミングは必要ありません。これらの値を変更するには、1つのバーコードまたは短いバーコードシーケンスをスキャンします。3-22 ページの「**設定の保存**」をスキャンすると、新しい設定は不揮発性メモリに保存され、スキャナの電源を落としても保持されます。

すべての機能をデフォルト値に戻すには、3-4 ページの「**工場出荷時の状態に戻す**」をスキャンします。バーコードプログラミングバーコードメニュー全体で、デフォルト値をアスタリスク (*) で示しています。



* はデフォルトを示す ————— * 高周波数 ————— 機能/オプション

スキャンシーケンスの例

ほとんどの場合、パラメータ値の設定でスキャンするのは1つのバーコードだけです。たとえば、ビープ音を高音に設定するには、3-9 ページの「**ビープ音の音程**」にある [High Frequency] (ビープ音) バーコードをスキャンします。短い高音のビープ音が1回鳴ってLEDが緑色に変わると、パラメータが正常に設定されたことがわかります。

また、複数のバーコードをスキャンして設定する必要がある「**データ転送フォーマット**」などのパラメータもあります。この手順に関するパラメータの説明を参照してください。

スキャン中のエラー

特に指示がない限り、一連のスキャンでエラーが発生した場合は、正しいパラメータを再スキャンします。

ユーザ設定のデフォルトパラメータ

表 3-1 に、ユーザ設定パラメータのデフォルトを示します。オプションを変更する場合は、この章に掲載されている適切なバーコードをスキャンします。

- ✓ **注** すべてのデフォルト パラメータについては、[付録 A、標準のデフォルト設定パラメータ](#)を参照してください。

表 3-1 ユーザ設定のデフォルト一覧

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
リセット	N/A		3-4
工場出荷時の状態に戻す	N/A		3-4
日付設定	N/A		3-5
時刻設定	N/A		3-5
日付および時刻の設定をキャンセル	N/A		3-5
データのクリア	N/A		3-7
ビープ音の音量	0x8C	通常	3-8
ビープ音	0x91	中周波	3-9
ビープ音のミュート	N/A	ミュートしない	3-10
スキャン角度	0xBF	ワイド (47°)	3-11
「読み取りなし」メッセージの転送	0x5E	無効化	3-12
Bluetooth ペ어링解除	N/A		3-13
Bluetooth HID プロファイル	N/A		3-13
Bluetooth シリアル ポート プロファイル	N/A		3-13
すべてのシンボル体系を無効化	N/A		3-14
リニア コード タイプのセキュリティ レベル	0x4E	1	3-15
双方向リダンダンシー	0x43	無効化	3-16
データ オプション			
コード ID キャラクタの転送	0x2D	なし	3-17
プリフィックス/サフィックス値			3-18
プリフィックス	0x69	NULL	
サフィックス 1	0x68	LF	
サフィックス 2	0x6A	CR	
スキャン データ転送フォーマット	0xEB	データどおり	3-19
ファームウェア バージョンの送信	N/A		3-21

表 3-1 ユーザ設定のデフォルト一覧 (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
Bluetooth バージョンの送信	N/A		3-21
スキャン エンジン バージョンの送信	N/A		3-21
設定の保存	N/A		3-22

リセット

スキャナをリセットし、構成ファイルのパラメータを適用するには、以下のバーコードをスキャンします。



リセット

工場出荷時の状態に戻す

スキャナを工場出荷時の状態に戻すには、以下のバーコードをスキャンします。このスキャンにより、プログラムメモリから構成ファイルが再作成されます。



工場出荷時の状態に戻す

日付と時刻の設定

- ✓ **注** スキャナで時刻および日付スタンプを設定するには、構成バーコードをスキャンする必要があります。**config.ini** ファイルでは、時刻と日付を設定したり編集したりできません。この設定は、スキャナを使用しなくても3か月間は保持されます。

日付の設定

「日付の設定」バーコードをスキャンしてから、[3-6 ページの「日付および時刻設定のための数値バーコード」](#)にある mmddyy 形式の6桁の数値をスキャンします（最初の2桁は月、2番目の2桁は日、3番目の2桁は年）。

- ✓ **注** 日付形式を mmddyy から変更するには、[1-26 ページの「DateFormat」](#)を参照してください。



日付の設定

時刻の設定

「時刻の設定」バーコードをスキャンしてから、24時間形式で時刻を表す（最初の2桁は時間、2番目の2桁は分）hhmmの4桁の数値を[3-6 ページの「日付および時刻設定のための数値バーコード」](#)からスキャンします。

たとえば、時刻を午前8:45に設定するには、以下のバーコードをスキャンしてから0、8、4、5をスキャンします。午後3:07に設定するには、1、5、0、7をスキャンします。

- ✓ **注** 時刻形式を12時間と24時間で変更するには、[1-27 ページの「TimeFormat」](#)を参照してください。



時刻の設定

日付および時刻の設定のキャンセル

「設定日付/時刻のキャンセル」バーコードをスキャンし、日付および時刻の設定をキャンセルします。



設定日付/時刻のキャンセル

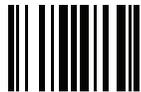
日付および時刻設定のための数値バーコード



0



2



4



6



8



Enter



1



3



5



7



9

データのクリア

以下のバーコードをスキャンし、スキャナにあるすべてのバッチ バーコード データをクリアします。このスキャンにより、スキャナから BarcodeFile.txt が削除されます。



データのクリア

ビープ音の設定

ビープ音の音量

パラメータ番号 0x8C

読み取りビープ音の音量を選択するには、該当するバーコードをスキャンします。



小
(0x02)



*中
(0x01)



大
(0x00)

ビープ音の音程

パラメータ番号 0x91

読み取りビープ音周波数 (音) を選択するには、該当するバーコードをスキャンします。



低音
(0x02)



* 中音
(0x01)



高音
(0x00)

ビープ音のミュート

「ビープ音のミュート」バーコードをスキャンして、ビープ音をミュートします。



ビープ音のミュート
(0x01)



* ビープ音をミュートしない
(0x00)

スキャナ オプション

スキャン角度

パラメータ番号 0xBF

このパラメータは、スキャン角度をナローまたはワイドに設定します。



ナロー角度 (35°)
(0x05)



*ワイド角度 (47°)
(0x06)

✓ **注** この設定に使用できる値は、これまでのモデルのスキャナの一部では異なります。古い値は引き続き使用可能で、以下のようにスキャナが解釈します。

0x00 - 0x05	0x06 - 0x2C	0x2D - 0x4A	0x4B - 0xFF
ナロー (0x05)	ワイド (0x06)	ナロー (0x05)	ワイド (0x06)

「読み取りなし」メッセージの転送

パラメータ番号 0x5E

タイムアウト期間またはトリガを離すまでにシンボルが読み取られない場合に"NR"を送信するときには、このオプションを有効にします。このメッセージには、有効になったプリフィックスまたはサフィックスが付加されます。

シンボルが読み取られなかった場合にホストにメッセージを送信しないときは、このオプションを無効にします。



"NR" を有効にする
(0x01)



*"NR" を無効にする
(0x00)

Bluetooth オプション

Bluetooth ペアリング解除

以下のバーコードをスキャンし、ホストからスキャナをペアリング解除します。



ペアリングの解除

Bluetooth HID プロファイル

「Bluetooth HID プロファイル」をスキャンし、スキャナがキーボードをエミュレートさせます。



Bluetooth HID プロファイル

Bluetooth シリアルポート プロファイル (SPP)

[Bluetooth SPP] をスキャンし、スキャナにシリアル接続をエミュレートさせます。



Bluetooth SPP

すべてのシンボル体系の無効化

以下のバーコードをスキャンし、すべてのシンボル体系の読み取りを無効にします。これをスキャンしてから希望のコードタイプバーコードを有効にすることで、読み取るシンボル体系を1つ選択することが簡単になります。スキャナは引き続きパラメータバーコードを読み取ることができます。



すべてのシンボル体系を無効化

リニアコードタイプのセキュリティレベル

パラメータ番号 0x4E

リニアコードタイプ(例、Code 39、Interleaved 2 of 5)に対して、スキャナには4つの読み取りセキュリティのレベルが用意されています。バーコード品質レベルの低下に応じて、選択するセキュリティレベルを上げます。セキュリティレベルが上がれば、スキャナの読み取り速度は低下します。

バーコード品質に適したセキュリティレベルを選択します。

リニアセキュリティレベル1

読み取りを行う前に、スキャナで以下のコードタイプを2回読み取る必要があります。

コードタイプ	期間
Codabar	すべて
MSI	4 以下
D 2 of 5	8 以下
I 2 of 5	8 以下



*リニアセキュリティレベル1
(0x01)

リニアセキュリティレベル2

読み取りを行う前に、スキャナですべてのコードタイプを2回読み取る必要があります。



リニアセキュリティレベル2
(0x02)

リニア セキュリティ レベル 3

読み取りを行う前に、スキャナで以下に挙げた以外のコード タイプを 2 回読み取る必要があります。以下のコードは 3 回読み取る必要があります。

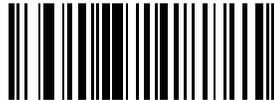
コードタイプ	期間
MSI	4 以下
D 2 of 5	8 以下
I 2 of 5	8 以下



リニア セキュリティ レベル 3
(0x03)

リニア セキュリティ レベル 4

読み取りを行う前に、スキャナですべてのコード タイプを 3 回読み取る必要があります。



リニア セキュリティ レベル 4
(0x04)

双方向リダンダンシー

パラメータ番号 0x43

このパラメータは、「**リニア コード タイプのセキュリティ レベル**」が有効になっているときだけ有効です。このパラメータを有効にすると、読み取りを行う前に、スキャナで両方向（順方向と逆方向）でバーコードを正常に読み取る必要があります。



双方向リダンダンシーを有効化
(0x01)



* 双方向リダンダンシーを無効化
(0x00)

データ オプション

コード ID キャラクタの転送

パラメータ番号 0x2D

コード ID キャラクタは、スキャンしたバーコードのコードタイプを特定します。この方法は複数のコードタイプを読み取る場合に便利です。コード ID キャラクタは、プリフィックス キャラクタ (選択している場合) と読み取ったシンボルの間に挿入されます。

コード ID キャラクタなし、シンボルコード ID キャラクタ、または AIM コード ID キャラクタから選択します。シンボルコード ID キャラクタが以下に一覧になっています。「[AIM コード ID](#)」については、[付録 B](#)、[プログラミング リファレンス](#)を参照してください。

- A = UPC-A、UPC-E、UPC-E1、EAN/JAN-8、EAN/JAN-13
- B = Code 39、Code 32
- C = Codabar
- D = Code 128、ISBT 128
- E = Code 93
- F = Interleaved 2 of 5
- G = Discrete 2 of 5
- J = MSI
- K = GS1-DataBar
- L = Bookland EAN
- M = Trioptic Code 39
- N = Coupon Code
- R = GS1 DataBar-14、GS1 DataBar Limited、GS1 DataBar Expanded



シンボルコード ID キャラクタ
(0x02)



AIM コード ID キャラクタ
(0x01)



*なし
(0x00)

プリフィックス/サフィックス値

パラメータ番号 P = 0x69、S1 = 0x68、S2 = 0x6A

1つのプリフィックスと1つまたは2つのサフィックスのデータを編集します。これらの値を設定するには、ASCII 値に対応する4桁の数値(4つのバーコード)をスキャンします。詳細については、**B-7 ページの表 B-6**と**4-48 ページの「数値バーコード」**を参照してください。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、**4-50 ページの「キャンセル」**をスキャンします。シリアル コマンド経由でプリフィックス/サフィックス値を設定するには、**B-7 ページ「プリフィックスとサフィックスの設定」**を参照してください。

- ✓ **注** プリフィックス/サフィックス値を使用するには、**3-19 ページの「スキャン データ転送フォーマット」**を設定します。
- ✓ **注** CS3000 シリーズ スキャナは ADF をサポートしませんが、パラメータ バーコードによるプリフィックスおよびサフィックス値の設定は可能です。



プリフィックスのスキャン



サフィックス 1 のスキャン



サフィックス 2 のスキャン



データ フォーマットのキャンセル

スキャン データ転送フォーマット

パラメータ番号 0xEB

スキャン データ転送フォーマットを変更するには、次のバーコードの中から希望のフォーマットに対応したバーコードをスキャンします。



* データのみ
(0x00)



<DATA> <SUFFIX 1>
(0x01)



<DATA> <SUFFIX 2>
(0x02)



<DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>
(0x03)

スキャン データ転送フォーマット (続き)



<PREFIX> <DATA >
(0x04)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1>
(0x05)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 2>
(0x06)



<PREFIX> <DATA> <SUFFIX 1> <SUFFIX 2>
(0x07)

バージョンの送信

ファームウェア バージョン

以下のバーコードをスキャンして、ホストにファームウェア バージョンを送信します。



ファームウェア バージョン

Bluetooth バージョン

以下のバーコードをスキャンして、ホストに Bluetooth バージョンを送信します。



Bluetooth バージョン

スキャン エンジン バージョン

以下のバーコードをスキャンして、ホストにスキャン エンジン バージョンを送信します。



スキャン エンジン バージョン

設定の保存

パラメータの設定後に以下のバーコードをスキャンし、新しい設定の選択内容を保存します。



設定の保存

第4章 シンボル体系

はじめに

この章では、読み取り可能コードについて説明し、スキャナのこれらの機能を選択するためのプログラミングバーコードを示します。プログラミングの前に、**第1章の「ご使用前に」**の手順に従ってください。

スキャナは、**4-2 ページの表 4-1**に示す設定で出荷されています (スキャナのデフォルト値については、**付録 A、標準のデフォルト設定パラメータ**も参照)。デフォルト値が要件に適合している場合、プログラミングは必要ありません。機能値は1つのバーコードまたは短いバーコードシーケンスをスキャンして設定します。すべての機能をデフォルト値に戻すには、**3-4 ページの「リセット」**をスキャンします。

スキャンシーケンスの例

ほとんどの場合、パラメータ値の設定でスキャンするのは1つのバーコードだけです。たとえば、UPC-A チェック デジットを含まないバーコード データを転送する場合は、**4-13 ページの「UPC-A チェック デジットを転送」**の一覧に掲載された「UPC-A チェックデジット転送禁止」バーコードをスキャンします。短い高音のピープ音が1回鳴ってLEDが緑色に変わると、パラメータが正常に設定されたことがわかります。

また、複数のバーコードを順にスキャンして設定する「**D 2 of 5 の読み取り桁数設定**」などのパラメータもあります。この手順に関係するパラメータの説明を参照してください。

スキャン中のエラー

特に指定されていない限り、スキャン シーケンス中のエラーは、正しいパラメータを再スキャンすることで修正できます。

シンボル体系のデフォルトパラメータ

表 4-1 にすべての読み取り可能コードのパラメータのデフォルトを示します。オプションを変更するには、この章で示されている適切なバーコードをスキャンします。

- ✓ 注 すべてのデフォルト パラメータについては、付録 A、標準のデフォルト設定パラメータを参照してください。

表 4-1 工場出荷時のデフォルト設定の表

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
UPC/EAN/JAN			
UPC-A	0x01	有効	4-5
UPC-E	0x02	有効	4-5
UPC-E1	0x0C	無効	4-6
EAN/JAN-8	0x04	有効	4-6
EAN/JAN-13	0x03	有効	4-7
Bookland EAN	0x53	無効	4-7
UPC/EAN/JAN サプリメンタルのデコード	0x10	無視	4-8
ユーザプログラム可能なサプリメンタル サプリメンタル 1: サプリメンタル 2:	0xF1 0x43 0xF1 0x44		4-12
UPC/EAN/JAN サプリメンタルのリダンダンシー	0x50	7	4-12
UPC-A チェック デジットを転送	0x28	有効	4-13
UPC-E チェック デジットを転送	0x29	有効	4-13
UPC-E1 チェック デジットを転送	0x2A	有効	4-14
UPC-A プリアンブル	0x22	システム キャラクタ	4-14
UPC-E プリアンブル	0x23	システム キャラクタ	4-15
UPC-E1 プリアンブル	0x24	システム キャラクタ	4-16
UPC-E から A フォーマットへの変換	0x25	無効	4-17
UPC-E1 から A フォーマットへの変換	0x26	無効	4-17
EAN/JAN-8 Zero Extend	0x27	無効	4-18
Bookland ISBN 形式	F1h 40h	ISBN-10	4-19
UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル	0x4D	0	4-20
UCC クーポン拡張コード	0x55	無効	4-21

表 4-1 工場出荷時のデフォルト設定の表 (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
CODE 128			
CODE 128	0x08	有効	4-21
GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)	0x0E	有効	4-22
ISBT 128	0x54	有効	4-22
CODE 39			
CODE 39	0x00	有効	4-23
Trioptic Code 39	0x0D	無効	4-23
Code 39 から Code 32 への変換	0x56	無効	4-24
Code 32 プリフィックス	0xE7	無効	4-24
Code 39 の読み取り桁数設定	0x12 0x13	2-55	4-25
Code 39 チェック デジット検証	0x30	無効	4-26
Code 39 チェック デジットを転送	0x2B	無効	4-26
Code 39 Full ASCII 変換	0x11	無効	4-27
CODE 93			
CODE 93	0x09	無効	4-28
Code 93 の読み取り桁数設定	0x1A 0x1B	4-55	4-28
CODE 11			
CODE 11	0x0A	無効	4-30
Code 11 の読み取り桁数設定	0x1C 0x1D	4 ~ 55	4-30
Code 11 チェック デジット検証	0x34	無効	4-32
Code 11 チェック デジットの転送	0x2F	無効	4-33
Interleaved 2 of 5			
Interleaved 2 of 5	0x06	有効	4-33
Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定	0x16 0x17	14	4-34
Interleaved 2 of 5 チェック デジット検証	0x31	無効	4-36
Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送	0x2C	無効	4-36
Interleaved 2 of 5 から EAN 13 への変換	0x52	無効	4-37

表 4-1 工場出荷時のデフォルト設定の表 (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
Discrete 2 of 5			
Discrete 2 of 5	0x05	無効	4-37
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定	0x14 0x15	12	4-38
Chinese 2 of 5			
Chinese 2 of 5	0xF0 0x98	無効	4-39
Codabar			
Codabar	0x07	無効	4-39
Codabar の読み取り桁数設定	0x18 0x19	5-55	4-40
CLSI 編集	0x36	無効	4-41
NOTIS 編集	0x37	無効	4-41
MSI			
MSI	0x0B	無効	4-42
MSI の読み取り桁数設定	0x1E 0x1F	6-55	4-43
MSI チェック デジット	0x32	1	4-44
MSI チェック デジットの転送	0x2E	無効	4-44
MSI チェック デジットのアルゴリズム	0x33	Mod 10/Mod 10	4-45
GS1 DataBar			
GS1 DataBar-14	0xF0 0x52	無効	4-45
GS1 DataBar Limited	0xF0 0x53	無効	4-46
GS1 DataBar Expanded	0xF0 0x54	無効	4-46
GS1 DataBar を UPC/EAN/JAN に変換	0xF0 0x8D	無効	4-47
数値バーコード			4-48
キャンセル			4-50

UPC/EAN/JAN

UPC-A の有効化/無効化

パラメータ番号 0x01

UPC-A を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*UPC-A を有効にする
(0x01)



UPC-A を無効にする
(0x00)

UPC-E の有効化/無効化

パラメータ番号 0x02

UPC-E を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



*UPC-E を有効にする
(0x01)



UPC-E を無効にする
(0x00)

UPC-E1 の有効化/無効化

パラメータ番号 0x0C

UPC-E1 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。

✓ 注 UPC-E1 は、UCC (Uniform Code Council) 承認のシンボル体系ではありません。



UPC-E1 を有効にする
(0x01)



*UPC-E1 を無効にする
(0x00)

EAN/JAN-8 の有効化/無効化

パラメータ番号 0x04

EAN/JAN-8 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



*EAN/JAN-8 を有効にする
(0x01)



EAN/JAN-8 を無効にする
(0x00)

EAN/JAN-13 の有効化/無効化

パラメータ番号 0x03

EAN/JAN-13 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



*EAN/JAN-13 を有効にする
(0x01)



EAN/JAN-13 を無効にする
(0x00)

Bookland EAN の有効化/無効化

パラメータ番号 0x53

EAN Bookland を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Bookland EAN を有効にする
(0x01)



*Bookland EAN を無効にする
(0x00)



注

Bookland EAN を有効にする場合は、[4-19 ページの「Bookland ISBN 形式」](#)を選択します。また、[4-8 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルのデコード」](#)で「UPC/EAN/JAN サプリメンタルを読み取る」、「UPC/EAN/JAN サプリメンタルを自動認識する」、または「978/979 サプリメンタル モードを有効にする」のいずれかを選択します。

UPC/EAN/JAN サプリメンタルのデコード

パラメータ番号 0x10

サプライメンタルは、特定の形式に従って追加されるバーコードです (例、UPC A+2、UPC E+2、EAN 13+2)。次のオプションから選択できます。

- 「**サプライメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を無視する**」を選択した場合、サプライメンタル シンボル付き UPC/EAN/JAN をスキャンすると、UPC/EAN/JAN は読み取られますが、サプライメンタル キャラクタは無視されます。
- 「**サプライメンタルコード付き UPC/EAN/JAN のみ読み取る**」を選択した場合、サプライメンタル キャラクタ付き UPC/EAN/JAN シンボルのみが読み取られ、サプライメンタルがないシンボルは無視されます。
- 「**サプライメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を自動認識する**」を選択した場合、サプライメンタル キャラクタ付き UPC/EAN/JAN は直ちに読み取られます。シンボルにサプライメンタルがない場合、スキャナはサプライメンタルがないことを確認するために、**4-12 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルのリダンダンシー」**で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを転送します。
- 次の**サプライメンタル モード**オプションのいずれかを選択した場合、スキャナは、サプライメンタル キャラクタを含んだプリフィックスで始まる EAN/JAN-13 バーコードを直ちに転送します。シンボルにサプライメンタルがない場合、スキャナはサプライメンタルがないことを確認するために、**4-12 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルのリダンダンシー」**で設定された回数だけバーコードを読み取ってから、このデータを転送します。プリフィックスを含まない UPC/EAN/JAN バーコードは直ちに転送されます。
- **378/379 サプリメンタル モードを有効にする。**
- **978/979 サプリメンタル モードを有効にする。**

✓ **注** 「978/979 サプリメンタル モード」を選択し、Bookland EAN バーコードをスキャンしている場合、**4-7 ページの「Bookland EAN の有効化/無効化」**を参照して Bookland EAN を有効にし、**4-19 ページの「Bookland ISBN 形式」**を使用して形式を選択します。

- **977 サプリメンタル モードを有効にする。**
- **414/419/434/439 サプリメンタル モードを有効にする。**
- **491 サプリメンタル モードを有効にする。**
- **スマート サプリメンタル モードを有効にする** — 前述したプリフィックスで始まる EAN/JAN-13 バーコードに適用されます。
- **ユーザプログラムサプライメンタル タイプ 1** — ユーザが定義した 3 桁のプリフィックスで始まる EAN/JAN-13 バーコードに適用されます。**4-12 ページの「ユーザプログラム可能なサプライメンタル」**を使用して 3 桁のプリフィックスを設定します。
- **ユーザプログラムサプライメンタル タイプ 1 および 2** — ユーザが定義した 2 つある 3 桁のプリフィックスのいずれかで始まる EAN/JAN-13 バーコードに適用されます。この 3 桁のプリフィックスは、**4-12 ページの「ユーザプログラム可能なサプライメンタル」**を使用して設定します。
- **スマート サプリメンタル プラスユーザプログラム 1** — 前述したプリフィックスか、または**4-12 ページの「ユーザプログラム可能なサプライメンタル」**を使用してユーザが定義したプリフィックスで始まる EAN/JAN-13 バーコードに適用されます。
- **スマート サプリメンタル プラスユーザプログラム 1 および 2** — 前述したプリフィックスか、または**4-12 ページの「ユーザプログラム可能なサプライメンタル」**を使用してユーザが定義した 2 つのプリフィックスのいずれかで始まる EAN/JAN-13 バーコードに適用されます。

✓ **注** 無効なデータ転送となるリスクを最小限に抑えるため、サプライメンタル キャラクタの読み取りが無視のいずれかを選択します。

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (続き)

次のいずれかのバーコードをスキャンして、希望のオプションを選択します。



UPC/EAN/JAN サプリメンタルのデコード
(0x01)



* サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を無視する
(0x00)



サプリメンタルコード付き UPC/EAN/JAN を自動認識する
(0x02)



378/379 サプリメンタル モードを有効にする
(0x04)



978/979 サプリメンタル モードを有効にする
(0x05)

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (続き)



977 サプリメンタル モードを有効にする
(0x07)



414/419/434/439 サプリメンタル モードを有効にする
(0x06)



491 サプリメンタル モードを有効にする
(0x08)



スマート サプリメンタル モードを有効にする
(0x03)

UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り (続き)

ユーザプログラムサプリメンタルタイプ 1
(0x09)ユーザプログラムサプリメンタルタイプ 1 および 2
(0x0A)スマート サプリメンタル プラス ユーザプログラム 1
(0x0B)スマート サプリメンタル プラス ユーザプログラム 1 および 2
(0x0C)

ユーザプログラム可能なサプリメンタル

サプリメンタル 1: パラメータ番号 0xF1 0x43

サプリメンタル 2: パラメータ番号 0xF1 0x44

4-8 ページの「UPC/EAN/JAN サプリメンタルのデコード」でユーザプログラム可能なサプリメンタル オプションのいずれかを選択した場合、3 桁のプリフィックスを設定するには、「ユーザプログラム可能サプリメンタル 1」を選択します。さらに 4-48 ページの「数値バーコード」を使用して 3 桁を選択します。別の 3 桁のプリフィックスを設定するには、「ユーザプログラム可能サプリメンタル 2」を選択します。さらに 4-48 ページの「数値バーコード」を使用して 3 桁を選択します。



ユーザプログラム可能サプリメンタル 1



ユーザプログラム可能サプリメンタル 2

UPC/EAN/JAN サプリメンタルのリダンダンシー

パラメータ番号 0x50

「UPC/EAN/JAN サプリメンタルを自動認識する」を選択した場合、このオプションではサプリメンタルなしのシンボルを転送前に読み取る回数が調整されます。設定範囲は、2 ~ 30 回です。サプリメンタル付きとなしが混在している UPC/EAN/JAN シンボルを読み取り、自動認識オプションを選択する場合は、5 以上をお勧めします。

以下のバーコードをスキャンし、読み取り冗長値を選択します。次に、4-48 ページの「数値バーコード」から 2 つの数字バーコードをスキャンします。1 桁の数字には先頭にゼロを付ける必要があります。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、4-50 ページの「キャンセル」をスキャンします。



UPC/EAN/JAN のデコード
サプリメンタルの読み取り冗長
(デフォルト: 7)

UPC-A チェック デジットを転送

パラメータ番号 0x28

以下の該当するバーコードをスキャンし、シンボルを UPC-A チェック デジット付きまたはなしで転送します。



*UPC-A チェック デジットを転送
(0x01)



UPC-A チェック デジットを転送しない
(0x00)

UPC-E チェック デジットを転送

パラメータ番号 0x29

以下の該当するバーコードをスキャンし、シンボルを UPC-E チェック デジット付きまたはなしで転送します。



*UPC-E チェック デジットを転送
(0x01)



UPC-E チェック デジットを転送しない
(0x00)

UPC-E1 チェック デジットを転送

パラメータ番号 0x2A

以下の該当するバーコードをスキャンし、シンボルを UPC-E1 チェック デジット付きまたはなしで転送します。



*UPC-E1 チェック デジットを転送
(0x01)



UPC-E1 チェック デジットを転送しない
(0x00)

UPC-A プリアンブル

パラメータ番号 0x22

プリアンブル キャラクタ (国コードとシステム キャラクタ) は、UPC-A シンボルの一部として転送できます。UPC-A プリアンブルのホスト デバイスへの転送について、システム キャラクタのみ転送する、システム キャラクタと国コード (米国は「0」) を転送する、プリアンブルを転送しないの 3 つのオプションのいずれかを選択します。



プリアンブルなし
(<データ>
(0x00)



* システム キャラクタ
(<システム キャラクタ><データ>
(0x01)



システム キャラクタおよび国コード
(<国コード><システム キャラクタ><データ>
(0x02)

UPC-E プリアンブル

パラメータ番号 0x23

プリアンブル キャラクタ (国コードとシステム キャラクタ) は、UPC-E シンボルの一部として転送できます。UPC-E プリアンブルのホスト デバイスへの転送について、システム キャラクタのみ転送する、システム キャラクタと国コード (米国は「0」) を転送する、プリアンブルを転送しないの 3 つのオプションのいずれかを選択します。



プリアンブルなし
(<データ>
(0x00)



* システム キャラクタ
(<システム キャラクタ><データ>
(0x01)



システム キャラクタおよび国コード
(<国コード><システム キャラクタ><データ>
(0x02)

UPC-E1 プリアンブル

パラメータ番号 0x24

プリアンブル キャラクタ (国コードとシステム キャラクタ) は、UPC-E1 シンボルの一部として転送できません。UPC-E1 プリアンブルのホスト デバイスへの転送について、システム キャラクタのみ転送する、システム キャラクタと国コード (米国は「0」) を転送する、プリアンブルを転送しないの 3 つのオプションのいずれかを選択します。



プリアンブルなし
(<データ>
(0x00)



* システム キャラクタ
(<システム キャラクタ><データ>
(0x01)



システム キャラクタおよび国コード
(<国コード><システム キャラクタ><データ>
(0x02)

UPC-E を UPC-A に変換

パラメータ番号 0x25

転送前に UPC-E (ゼロ抑制) 読み取りデータを UPC-A 形式に変換するには、このパラメータを有効にします。変換後、データは UPC-A 形式に従い、UPC-A プログラミング選択 (例、プリアンブル、チェック デジット) の影響を受けます。

UPC-E (ゼロ抑制) 読み取りデータを転送するには、「UPC-E を UPC-A に変換しない」をスキャンします。



UPC-E を UPC-A に変換する (有効)
(0x01)



*UPC-E を UPC-A に変換しない (無効)
(0x00)

UPC-E1 を UPC-A に変換する

パラメータ番号 0x26

転送前に UPC-E1 (ゼロ抑制) 読み取りデータを UPC-A 形式に変換するには、このパラメータを有効にします。変換後、データは UPC-A 形式に従い、UPC-A プログラミング選択 (例、プリアンブル、チェック デジット) の影響を受けます。

UPC-E1 (ゼロ抑制) 読み取りデータを転送するには「UPC-E を UPC-A に変換しない」をスキャンします。



UPC-E1 を UPC-A に変換する (有効)
(0x01)



*UPC-E1 を UPC-A に変換しない (無効)
(0x00)

EAN Zero Extend

パラメータ番号 0x27

有効にすると、このパラメータは 5 個の先行ゼロを読み取られた EAN/JAN-8 シンボルに追加して、EAN/JAN-13 シンボルに対応するフォーマットにします。

EAN/JAN-8 シンボルをそのまま転送するには、このパラメータを無効にします。



EAN Zero Extend を有効化
(0x01)



*EAN Zero Extend を無効化
(0x00)

Bookland ISBN 形式

パラメータ番号 0xF1 0x40

4-7 ページの「**Bookland EAN の有効化/無効化**」を使用して Bookland EAN を有効にした場合、次のいずれかの形式の Bookland データを選択します。

- **Bookland ISBN-10** - 下位互換性用の特殊な Bookland チェック デジットを備えた従来の 10 桁形式で、978 で始まる Bookland データが認識されます。このモードでは、979 で始まるデータは Bookland とは見なされません。
- **Bookland ISBN-13** - 2007 ISBN-13 プロトコル対応の 13 桁形式で、978 または 979 で始まる EAN/JAN-13 データが Bookland と認識されます。



*Bookland ISBN-10
(0x00)



Bookland ISBN-13
(0x01)

- ✓ **注** Bookland EAN を適切に使用するには、まず 4-7 ページの「**Bookland EAN の有効化/無効化**」を使用して、Bookland EAN を有効にします。次に、4-8 ページの「**UPC/EAN/JAN サプリメンタルのデコード**」で「**サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN のみ読み取る**」、「**サプリメンタル付き UPC/EAN/JAN を自動認識する**」、または「**978/979 サプリメンタル モードを有効にする**」のいずれかを選択します。

UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル

パラメータ番号 0x4D

Symbol CS3070 では、UPC/EAN/JAN バーコードの 4 種類のセキュリティ レベルを設定できます。バーコードの品質レベルが下がった場合、セキュリティのレベルを上げます。高いレベルのセキュリティを選択するほど、バーコード品質のレベルが低下します。セキュリティのレベルを上げるとスキャナの読み取り速度は低下するため、アプリケーションに必要なレベルのセキュリティのみを選択してください。

UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル 0

このデフォルト設定では、デジタル スキャナはその性能を最大限に発揮できる状態で動作しつつ、ほとんどの「規格内」の UPC/EAN/JAN バーコードを読み取るために十分な読み取り精度を確保できます。



*UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル 0
(0x00)

UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル 1

バーコードの品質レベルが低下すると、特定の文字 (1、2、7、8 など) は他の文字よりも先に読み取りミスが起こりやすくなります。バーコードの印刷品質が低いために読み取りミスが発生するものの、その読み取りミスがこれらの文字に限定される場合は、このセキュリティ レベルを選択します。



UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル 1
(0x01)

UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル 2

バーコードの印刷品質が低いために読み取りミスが発生し、その読み取りミスが 1、2、7、8 の文字に限定されない場合は、このセキュリティ レベルを選択します。



UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル 2
(0x02)

UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル 3

セキュリティ レベル 2 を選択しても引き続き読み取りミスが発生する場合は、このセキュリティ レベルを選択します。このオプションを選択するのは読み取り間違いに対する非常手段であり、バーコードの規格外であることに注意してください。このセキュリティ レベルを選択すると、スキャナの読み取り機能が大幅に低下します。このレベルのセキュリティが必要な場合は、バーコードの品質を上げるようにしてください。



UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル 3
(0x03)

UCC Coupon Extended Code

パラメータ番号 0x55

UCC Coupon Extended Code は、UCC Coupon Code に隣接する追加バーコードです。UCC Coupon Extended Code の読み取りを設定するには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



UCC クーポン拡張コードを有効にする
(0x01)



*UCC クーポン拡張コードを無効にする
(0x00)

Code 128

Code 128 を有効/無効にする

パラメータ番号 0x08

Code 128 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



*Code 128 を有効にする
(0x01)

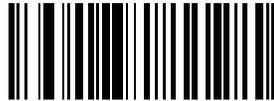


Code 128 を無効にする
(0x00)

GS1-128 (旧 UCC/EAN-128) を有効/無効にする

パラメータ番号 0x0E

GS1-128 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。付録 B、プログラミングリファレンス については、「[GS1-128 \(旧 UCC/EAN-128\)](#)」を参照してください。



*GS1-128 を有効にする
(0x01)



GS1-128 を無効にする
(0x00)

ISBT 128 を有効/無効にする

パラメータ番号 0x54

ISBT 128 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを選択します。



* ISBT 128 を有効にする
(0x01)



ISBT 128 を無効にする
(0x00)

Code 128 の読み取り桁数を設定する

Code 128 には読み取り桁数を設定する必要はありません。

CODE 39

Code 39 を有効/無効にする

パラメータ番号 0x00

Code 39 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



*Code 39 を有効にする
(0x01)



Code 39 を無効にする
(0x00)

Trioptic Code 39 を有効/無効にする

パラメータ番号 0x0D

Trioptic Code 39 とは、Code 39 のバリエーションで、コンピュータのテープカートリッジでのマーキングに使用されます。Trioptic Code 39 シンボルには、常に 6 文字が含まれます。

Trioptic Code 39 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



Trioptic Code 39 を有効にする
(0x01)



*Trioptic Code 39 を無効にする
(0x00)



注 Trioptic Code 39 および Code 39 Full ASCII は、同時に有効にすることはできません。Trioptic Code 39 を有効にするとエラーのビープ音が鳴る場合は、Code 39 Full ASCII を無効にしてから再度実行してください。

Code 39 から Code 32 への切り替え (Italian Pharma Code)

パラメータ番号 0x56

Code 32 はイタリアの製薬業界で使用される Code 39 の一種です。Code 39 を Code 32 に変換するかしないかを設定するには、下記の適切なバーコードをスキャンします。

✓ **注** このパラメータを設定するには、Code 39 を有効にする必要があります。



Code 39 から Code 32 への変換を許可
(0x01)



*Code 39 から Code 32 への変換を禁止
(0x00)

Code 32 プリフィックス

パラメータ番号 0xE7

すべての Code 32 バーコードにプリフィックス キャラクタ **A** を追加するには、このパラメータを有効にします。このパラメータが機能するためには、**Code 39 から Code 32 への変換** (Italian Pharma Code) を有効にします。



Code 32 プリフィックスを許可
(0x01)



*Code 32 プリフィックスを禁止
(0x00)

Code 39 の読み取り桁数を設定する

パラメータ番号 L1 = 0x12、L2 = 0x13

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、文字数 (人間が読み取れる文字) を参照します。Code 39 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。Code 39 Full ASCII を有効にした場合、推奨するオプションは「指定範囲内」または「任意長」です。

✓ **注** 読み取り桁数を設定するとき、1 桁の数字には最初にゼロを含めます。

1 種類の読み取り桁数: このオプションは、選択した読み取り桁数を含む Code 39 シンボルの読み取りに制限します。[4-48 ページの「数値バーコード」](#) を使用して読み取り桁数を選択します。たとえば、14 文字の Code 39 シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の Code 39 読み取り桁数**」を選択し、次に、**1**、**4** をスキャンします。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。



Code 39 - 1 種類の読み取り桁数

2 種類の読み取り桁数: このオプションは、2 種類の選択した読み取り桁数を含む Code 39 シンボルの読み取りに制限します。[4-48 ページの「数値バーコード」](#) を使用して読み取り桁数を選択します。たとえば、2 文字または 14 文字の Code 39 シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の Code 39 読み取り桁数**」を選択し、次に、「**0**」、「**2**」、「**1**」、「**4**」をスキャンします。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには [4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。



Code 39 - 2 種類の読み取り桁数

範囲内の読み取り桁数: このオプションは、指定した範囲内での Code 39 シンボルの読み取りに制限します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、「**指定範囲内の Code 39 読み取り桁数**」を選択し、次に、**0**、**4**、**1**、**2** をスキャンします。[4-48 ページの「数値バーコード」](#) を使用して読み取り桁数を選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには [4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。



Code 39 - 範囲内の読み取り桁数

任意長: 任意の読み取り桁数を含む Code 39 シンボルを読み取るには、このオプションをスキャンします。



Code 39 - 任意長

Code 39 チェック デジット検証

パラメータ番号 0x30

すべての Code 39 シンボルの整合性を確認し、データが指定したチェック デジット アルゴリズムに準拠していることを検証するには、この機能を有効にします。module43 チェック デジットを含む Code 39 シンボルのみが読み取られるため、Code 39 シンボルに module 43 チェック デジットを含んでいる場合のみこのオプションを有効にします。



Code 39 チェック デジット検証
(0x01)



*Code 39 チェック デジットを転送しない
(0x00)

Code 39 チェック デジットを転送

パラメータ番号 0x2B

データをチェック デジット付きで転送するには、このバーコードをスキャンします。



Code 39 チェック デジットを転送する (有効)
(0x01)

データをチェック デジットなしで転送するには、このバーコードをスキャンします。



*Code 39 チェック デジットを転送しない (無効)
(0x00)

Code 39 Full ASCII を有効/無効にする

パラメータ番号 0x11

Code 39 Full ASCII とは、Code 39 のバリエーションで、キャラクタをペアにして Full ASCII キャラクタ セットを読み取ります。Code 39 Full ASCII を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。

Code 39 の ASCII 値へのマッピングについては、[B-7 ページの表 B-6](#) を参照してください。



Code 39 Full ASCII を有効にする
(0x00)



*Code 39 Full ASCII を無効にする
(0x00)



注 Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII を同時に有効にすることはできません。Code 39 Full ASCII を有効にするとエラーのビーブ音が鳴る場合は、Trioptic Code 39 を無効にしてから再度実行してください。

CODE 93

Code 93 を有効/無効にする

パラメータ番号 0x09

Code 93 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



Code 93 を有効にする
(0x01)



*Code 93 を無効にする
(0x00)

Code 93 の読み取り桁数を設定する

パラメータ番号 L1 = 0x1A、L2 = 0x1B

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、文字数 (人間が読み取れる文字) を参照します。Code 93 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。

1 種類の読み取り桁数: 選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、[Code 93 - 1 種類の読み取り桁数] を選択してから、のバーコード 1、4 をスキャンし、14 文字を含む Code 93 シンボルの読み取りに制限します。4-48 ページの「数値バーコード」選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、4-50 ページの「キャンセル」をスキャンします。



Code 93 - 1 種類の読み取り桁数

2種類の読み取り桁数: 選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、[Code 93 - 2種類の読み取り桁数] を選択してから、の 0、2、1、4 をスキャンして 2～14 文字を含む Code 93 シンボルの読み取りに制限します。4-48 ページの「数値バーコード」選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、4-50 ページの「キャンセル」をスキャンします。



Code 93 - 2種類の読み取り桁数

指定範囲内: 指定された範囲内の読み取り桁数のコードタイプを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、4～12文字を含む Code 93 シンボルを読み取るには、まず「Code 93 - 範囲内の読み取り桁数」をスキャンしてから、の 0、4、1、2 (1桁数値の前に付けるゼロを含む) をスキャンします。4-48 ページの「数値バーコード」選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、4-50 ページの「キャンセル」をスキャンします。



Code 93 - 範囲内の読み取り桁数

任意長: 任意の読み取り桁数を含む Code 93 シンボルを読み取るには、このオプションをスキャンします。



Code 93 - 任意長

CODE 11

Code 11 を有効/無効にする

パラメータ番号 0x0A

Code 11 を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。



Code 11 を有効にする
(0x01)



*Code 11 を禁止
(0x00)

Code 11 の読み取り桁数を設定する

パラメータ番号 L1 = 0x1C、L2 = 0x1D

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、文字数 (人間が読み取れる文字) を参照します。Code 11 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。

- **1 種類の読み取り桁数:** 1 種類の選択した読み取り桁数のコードだけを読み取ります。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#)のバーコードを使用して選択します。たとえば、14 文字の Code 11 シンボルだけを読み取るには、「**1 種類の Code 11 読み取り桁数**」を選択し、次に、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[4-50 ページの「キャンセル」](#)をスキャンします。
- **2 種類の読み取り桁数:** 2 種類の選択した読み取り桁数のコードだけを読み取ります。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#)のバーコードを使用して選択します。たとえば、2 文字または 14 文字を含む Code 11 シンボルだけを読み取るには、「**2 種類の Code 11 読み取り桁数**」を選択し、次に、0、2、1、4 をスキャンします。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は、[4-50 ページの「キャンセル」](#)をスキャンします。
- **指定範囲内:** 指定された範囲内の読み取り桁数のコードを読み取ります。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#)のバーコードを使用して選択します。たとえば、4 ~ 12 桁の範囲を指定する場合は、「**指定範囲内の Code 11 読み取り桁数**」を選択し、次に、0、4、1、2 をスキャンします。次に、0、4、1、2 をスキャンします (1 桁の場合に付けるゼロを含む)。操作を間違ったときや、選択した設定を変更する場合は [4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。
- **任意の読み取り桁数:** スキャナで許容される任意の文字数の Code 11 シンボルを読み取ります。

Code 11 の読み取り桁数設定 (続き)**Code 11 - 1 種類の読み取り桁数****Code 11 - 2 種類の読み取り桁数****Code 11 - 範囲内の読み取り桁数****Code 11 - 任意長**

Code 11 チェック デジットの確認

パラメータ番号 0x34

この機能を使用すると、スキャナがすべての Code 11 シンボルの整合性をチェックして、データが指定されたチェック デジット アルゴリズムに適合しているかどうかを確認します。これにより、読み取られた Code 11 バーコードのチェック デジット メカニズムが選択されます。このオプションは、1つのチェック デジットの確認、2つのチェック デジットの確認、または機能を無効にする場合に使用されます。

この機能を有効にするには、Code 11 シンボルのコード化されたチェック デジットの数に一致する下記のバーコードをスキャンします。



* 無効
(0x00)



1つのチェックデジット
(0x01)



2つのチェックデジット
(0x02)

Code 11 チェック デジットの転送

パラメータ番号 0x2F

この機能は、Code 11 のチェック デジットの転送を許可するかどうかを選択します。



Code 11 チェックデジット転送許可
(0x01)



*Code 11 チェックデジット転送禁止
(0x00)

- ✓ **注** このパラメータを設定するには、「Code 11 チェック デジットの確認」を「有効」にしておく必要があります。

Interleaved 2 of 5

Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする

パラメータ番号 0x06

Interleaved 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



* Interleaved 2 of 5 を有効にする
(0x01)



Interleaved 2 of 5 を無効にする
(0x00)

Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 0x16、L2 = 0x17

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、文字数 (人間が読み取れる文字) を参照します。12 of 5 の読み取り桁数は、[任意の読み取り桁数]、[1 種類の読み取り桁数]、[2 種類の読み取り桁数]、または [指定範囲内] に設定できます。シリアル コマンド経由で読み取り桁数を設定するには、B-8 ページの「シリアル コマンド経由のコード読み取り桁数設定」を参照してください。

✓ **注** 読み取り桁数を設定するとき、1 桁の数値の前には必ずゼロを付けてください。

1 種類の読み取り桁数: 選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、14 文字を含む 12 of 5 シンボルだけを読み取るには、「12 of 5 1 種類の読み取り桁数」を選択してから **1、4** をスキャンします。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#) のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。



*1 種類の Interleaved 2 of 5 読み取り桁数

2 種類の読み取り桁数: 2 種類の選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。例えば、6 ~ 14 文字を含む 12 of 5 シンボルを読み取るには、「12 of 5 2 種類の読み取り桁数」を選択してから **0、6、1、4** をスキャンします。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#) で数値バーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。



Interleaved 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数

Interleaved 2 of 5 の読み取り桁数設定 (続き)

指定範囲内: 指定された範囲内のコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、4～12文字を含む12 of 5 シンボルを読み取るには、まず「12 of 5 - 範囲内の読み取り桁数」を選択してから **0、4、1、2** (1桁数値の前に付けるゼロを含む) をスキャンします。読み取り桁数は、**4-48 ページの「数値バーコード」** のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、**4-50 ページの「キャンセル」** をスキャンします。



Interleaved 2 of 5 - 範囲内の読み取り桁数

任意の読み取り桁数: 任意の文字数を含む12 of 5 シンボルを読み取るには、このオプションをスキャンします。

✓ **注** このオプションを選択すると、12 of 5 コードの読み取りミスにつながる可能性があります。



Interleaved 2 of 5 - 任意長

Interleaved 2 of 5 チェック デジット検証

パラメータ番号 0x31

有効にすると、このパラメータは 1 2 of 5 シンボルの整合性をチェックし、USS (Uniform Symbology Specification) または OPCC (Optical Product Code Council) の指定アルゴリズムに準拠するようにします。



*無効
(0x00)



USS チェック デジット
(0x01)



OPCC チェック デジット
(0x02)

Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送

パラメータ番号 0x2C

以下のバーコードのいずれかをスキャンし、データをチェック デジットありまたはなしで転送するかどうかを選択します。



Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送する (有効)
(0x01)



*Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送しない (無効)
(0x00)

Interleaved 2 of 5 を EAN/JAN-13 に変換する

パラメータ番号 0x52

このパラメータは、14 文字の 12 of 5 コードを EAN/JAN-13 に変換し、EAN/JAN-13 としてホストに転送します。この変換を行うには、まず 12 of 5 を有効にして、1 種類の読み取り桁数を 14 に設定し、前に付けるゼロと有効な EAN/JAN-13 チェック デジットをコードに含めます。



Interleaved 2 of 5 を EAN/JAN-13 に変換する (有効)
(0x01)



*Interleaved 2 of 5 を EAN/JAN-13 に変換しない (無効)
(0x00)

Discrete 2 of 5

Discrete 2 of 5 を有効/無効にする

パラメータ番号 0x05

Discrete 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Discrete 2 of 5 を有効にする
(0x01)



*Discrete 2 of 5 を無効にする
(0x00)

Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 0x14、L2 = 0x15

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、文字数 (人間が読み取れる文字) を参照します。Discrete 2 of 5 の読み取り桁数を、任意長、1 または 2 種類の読み取り桁数、または指定範囲内の読み取り桁数に設定します。

1 種類の読み取り桁数: 選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、14 文字を含む D 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「D 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数」を選択してから 1、4 をスキャンします。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#)のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#)をスキャンします。



Discrete 2 of 5 - 1 種類の読み取り桁数

2 種類の読み取り桁数: 2 種類の選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、2 または 4 文字を含む D 2 of 5 シンボルだけを読み取るには、「D 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数」を選択してから 0、2、1、4 をスキャンします。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#)のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#)をスキャンします。



Discrete 2 of 5 - 2 種類の読み取り桁数

指定範囲内: 指定された範囲内のコードを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、4 および 12 文字を含む D 2 of 5 シンボルを読み取るには、まず「D 2 of 5 - 範囲内の読み取り桁数」をスキャンしてから 0、4、1、2 (1 桁数値の前に付けるゼロを含む) をスキャンします。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#)のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#)をスキャンします。



Discrete 2 of 5 - 範囲内の読み取り桁数

任意の読み取り桁数: 任意の文字数を含む D 2 of 5 シンボルを読み取るには、このオプションをスキャンします。

✓ **注** このオプションを選択すると、D 2 of 5 コードの読み取りミスにつながる可能性があります。



Discrete 2 of 5 - 任意長

Chinese 2 of 5

Chinese 2 of 5 を有効/無効にする

パラメータ番号 0xF0 0x98

Chinese 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Chinese 2 of 5 を有効にする
(0x01)



* Chinese 2 of 5 を無効にする
(0x00)

Codabar

Codabar を有効/無効にする

パラメータ番号 0x07

Codabar を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



Codabar を有効にする
(0x01)



*Codabar を無効にする
(0x00)

Codabar の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 0x18、L2 = 0x19

コードの読み取り桁数は、そのコードが含むチェック デジットをはじめ、文字数 (人間が読み取れる文字) を参照します。Codabar の読み取り桁数を、「任意長」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定します。

1 種類の読み取り桁数: 選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、14 文字を含む Codabar シンボルだけを読み取るには、「**Codabar - 1 種類の読み取り桁数**」を選択してから **1、4** をスキャンします。読み取り桁数は、**4-48 ページの「数値バーコード」**のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、**4-50 ページの「キャンセル」**をスキャンします。



Codabar - 1 種類の読み取り桁数

2 種類の読み取り桁数: 2 種類の選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、6 または 14 文字を含む Codabar シンボルだけを読み取るには、「**Codabar - 2 種類の読み取り桁数**」を選択してから **0、2、1、4** をスキャンします。読み取り桁数は、**4-48 ページの「数値バーコード」**で数値バーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、**4-50 ページの「キャンセル」**をスキャンします。



Codabar - 2 種類の読み取り桁数

指定範囲内: 指定された範囲内のコードを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、4 ~ 12 文字を含む Codabar シンボルを読み取るには、まず「**Codabar - 範囲内の読み取り桁数**」を選択してから **0、4、1、2** (1 桁数値の前に付けるゼロを含む) をスキャンします。読み取り桁数は、**4-48 ページの「数値バーコード」**のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、**4-50 ページの「キャンセル」**をスキャンします。



Codabar - 範囲内の読み取り桁数

任意の読み取り桁数: 任意の文字数を含む Codabar シンボルを読み取るには、このオプションを選択します。



Codabar - 任意長

CLSI 編集

パラメータ番号 0x36

このパラメータを有効にすると、スタート キャラクタとストップ キャラクタを取り除き、14 文字の Codabar シンボル中、1 番目、5 番目、および 10 番目のキャラクタの後にスペースを挿入します。

✓ 注 シンボルの長さには、スタート キャラクタおよびストップ キャラクタは含まれていません。



CLSI 編集を許可
(0x01)



*CLSI 編集を禁止
(0x00)

NOTIS 編集

パラメータ番号 0x37

読み取られた Codabar シンボルからスタート キャラクタとストップ キャラクタを取り除くには、このオプションを有効にします。



NOTIS 編集を許可
(0x01)



*NOTIS 編集を禁止
(0x00)

MSI

MSI の読み取り

パラメータ番号 0x0B

MSI の読み取りを設定します。



MSI 許可
(0x01)



*MSI 禁止
(0x00)

MSI の読み取り桁数設定

パラメータ番号 L1 = 0x1E、L2 = 0x1F

コードの読み取り桁数は、そのコードが含む文字数 (人間が読み取れる文字) を参照し、チェック デジットを含みます。MSI の読み取り桁数は、「任意長」、「1 種類の読み取り桁数」、「2 種類の読み取り桁数」、または「指定範囲内」に設定できます。ASCII 同等については、[B-7 ページの表 B-6](#) を参照してください。

1 種類の読み取り桁数: 選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、14 文字を含む MSI Plessey シンボルだけを読み取るには、「**MSI Plessey - 1 種類の読み取り桁数**」を選択してから **1、4** をスキャンします。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#) のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。



1 種類の MSI 読み取り桁数

2 種類の読み取り桁数: 2 種類の選択した読み取り桁数を含むコードだけを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、6 または 14 文字を含む MSI Plessey シンボルだけを読み取るには、「**MSI Plessey - 2 種類の読み取り桁数**」を選択してから **0、6、1、4** をスキャンします。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#) のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。



2 種類の MSI 読み取り桁数

指定範囲内: 指定された範囲内のコードを読み取るには、このオプションを選択します。たとえば、4 および 12 文字を含む MSI シンボルを読み取るには、まず「**指定範囲内の MSI 読み取り桁数**」を選択してから **0、4、1、2** (1 桁数値の前に付けるゼロを含む) をスキャンします。読み取り桁数は、[4-48 ページの「数値バーコード」](#) のバーコードを使用して選択します。選択内容を変更したり、誤った入力をキャンセルしたりするには、[4-50 ページの「キャンセル」](#) をスキャンします。



指定範囲内の MSI 読み取り桁数

任意長: 任意の読み取り桁数を含む MSI Plessey シンボルを読み取るには、このオプションをスキャンします。

✓ **注** このオプションを選択すると、MSI コードの読み取りミスにつながる可能性があります。



任意の MSI 読み取り桁数

MSI チェック デジット

パラメータ番号 0x32

バーコード末尾にあるこれらのチェック デジットは、データの整合性を検証します。最低 1 つのチェック デジットが常に必要です。チェック デジットは、データとともに自動的に転送されることはありません。

2 つのチェック デジットを選択した場合、[4-45 ページの「MSI チェック デジットのアルゴリズム」](#) も選択してください。



*1 つの MSI チェックデジット
(0x00)



2 つの MSI チェックデジット
(0x01)

MSI チェック デジットの転送

パラメータ番号 0x2E

以下のバーコードのいずれかをスキャンし、データをチェック デジットありまたはなしで転送するかどうかを選択します。



MSI チェック デジット転送許可 (有効)
(0x01)



*MSI チェック デジット転送禁止 (無効)
(0x00)

MSI チェック デジットのアルゴリズム

パラメータ番号 0x33

4-44 ページの「MSI チェック デジット」が 2 に設定されている場合、整合性を検証するには追加の検証が必要となります。次のいずれかのアルゴリズムを選択します。



MOD 10/MOD 11
(0x00)



*MOD 10/MOD 10
(0x01)

GS1 DataBar

GS1 DataBar-14 を有効/無効にする

パラメータ番号 0xF0 0x52

GS1 DataBar-14 を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



GS1 DataBar-14 を有効にする
(0x01)



* GS1 DataBar-14 を無効にする
(0x00)

GS1 DataBar Limited を有効/無効にする

パラメータ番号 0xF0 0x53

GS1 DataBar Limited を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



GS1 DataBar Limited を有効にする
(0x01)



*GS1 DataBar Limited を無効にする
(0x00)

GS1 DataBar Expanded を有効/無効にする

パラメータ番号 0xF0 0x54

GS1 DataBar Expanded を有効または無効にするには、以下の該当するバーコードをスキャンします。



GS1 DataBar Expanded を有効にする
(0x01)



* GS1 DataBar Expanded を無効にする
(0x00)

GS1 DataBar から UPC/EAN/JAN への変換

パラメータ番号 0xF0 0x8D

このパラメータは、GS1 DataBar-14 および GS1 DataBar Limited シンボルにのみ適用されます。この変換を有効にすると、最初の数字として 1 つのゼロをエンコードする GS1 DataBar-14 および GS1 DataBar Limited シンボルから先頭の「010」を取り除き、このバーコードを EAN/JAN-13 として通知します。

2 個以上 6 個未満のゼロで開始されるバーコードでは、この変換で先頭の「0100」が取り除かれ、UPC-A として転送されます。システムキャラクタと国コードを転送する「UPC-A プリアンブル」パラメータは、変換後のバーコードに適用されます。システムキャラクタとチェックディジットは取り除かれません。



GS1 DataBar から UPC/EAN/JAN への変換を有効にする



*GS1 DataBar から UPC/EAN/JAN への変換を無効にする

数値バーコード

特定の数値が必要なパラメータについては、以下のバーコードを使用します。

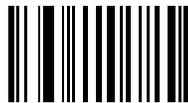
- ✓ **注** これらのバーコードは、[1-24 ページの「PIN 入力のための数値バーコード」](#) および [3-6 ページの「日付および時刻設定のための数値バーコード」](#) とは異なります。



0



1



2



3



4

数値バーコード(続き)



5



6



7



8



9

キャンセル

エラーの場合、あるいは選択内容を変更する場合は、以下のバーコードをスキャンします。



キャンセル

第5章 メンテナンスおよび技術仕様

はじめに

この章では、スキャナ メンテナンスの提案と、トラブルシューティング、技術仕様を説明します。

メンテナンス

必要なメンテナンスは、スキャナ ウィンドウのクリーニングだけです。ウィンドウの汚れはスキャン精度に影響を与えます。

- ウィンドウに研磨剤などが付着しないようにしてください。
- 湿らせた布でほこりを拭き取ってください。
- アンモニア/水で湿らせたティッシュを使用してウィンドウを拭きます。
- ウィンドウに水やその他の洗剤を直接スプレーしないでください。

トラブルシューティング

表 5-1 トラブルシューティング

問題	考えられる原因	考えられる解決方法
レーザーは照射されるが、バーコードが読み取れません。	スキャナが正しいバーコードタイプに対応するようにプログラムされていません。	スキャンしようとしているバーコードのタイプを読み取れるようプログラムされているかを確認します。
	バーコードを読み取れない。	印刷面に問題がないかバーコードを確認してください。同じ種類の他のバーコードをスキャン テストしてみてください。テストバーコードについては、 付録 C、サンプルバーコード を参照してください。
	バーコードがスキャナの読み取り範囲外です。	スキャナをバーコードに近付けるか、または離します。
バーコードをスキャンするとき、長いビープ音が 5 秒間鳴る。	メモリがいっぱいです。	バーコード データをホストにダウンロードして、メモリをクリアしてください。
スキャナがバーコードを読み取らず、LED が黄色、赤色、緑色に点滅する。	スキャナをリセットする必要があります。	リセット ボタンを押します。ボタンの場所は、 1-1 ページの図 1-1 を参照してください。
		以下の「デフォルトの復元」バーコードをスキャンします。 
スキャナの LED が数秒間赤色に点灯する。	バッテリー残量が少なくなっている。	バッテリーを充電します。 1-3 ページの「スキャナ バッテリーの充電」 を参照してください。
スキャナがフル充電されない。	電源供給のない USB ハブで充電をしている。	スキャナを電源供給のある USB ハブに接続します (最大 5V、500mA)。
Bluetooth LED が消灯する。	スキャナが Bluetooth ホストのエリア外にあります。	ホストに近づき、任意のキーを押してホストと再ペアリングします。
スキャナをホストに接続した後、スキャナドライブが見えない。	スキャナは、他のデバイスが使用しているドライブにマッピングされています。	Windows のマッピング ドライブ機能を使用して、スキャナ ドライブ文字を変更します。

注 問題が解決しない場合は、販売店または Motorola Solutions のサポートにご連絡ください。連絡先については、[xiii ページ](#)を参照してください。

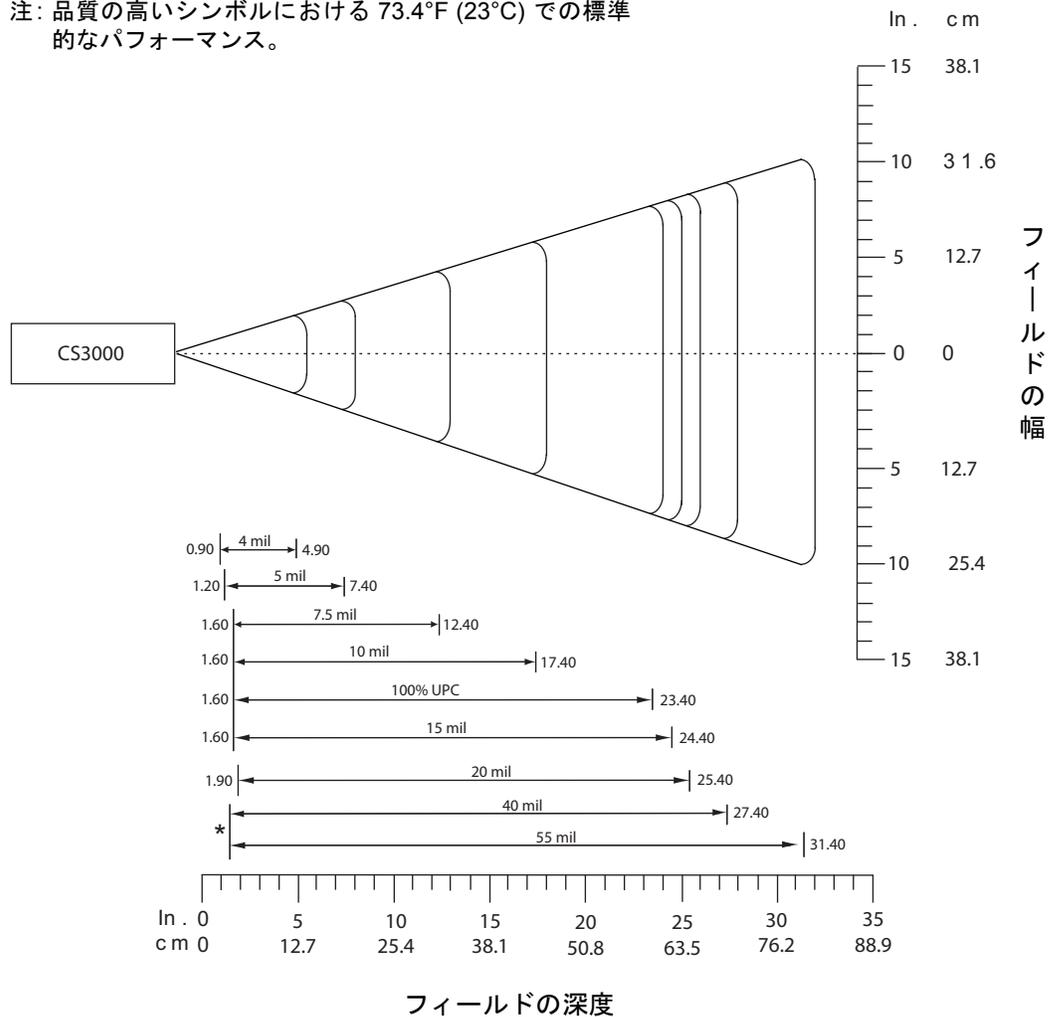
サポートにご連絡いただく前に、CS30XX の \Parameters フォルダにある **sysinfo.txt** ファイルを確認してください。このファイルには、デバイスのシリアル番号、ソフトウェア バージョン、Bluetooth バージョン、スキャン エンジン バージョンが記載されているので、スキャナのトラブルシューティングの際に役立ちます。

技術仕様

CS3000 の最新技術仕様情報については、以下を参照してください。 <http://www.motorola.com/CS3000>。

デコードゾーン

注: 品質の高いシンボルにおける 73.4°F (23°C) での標準的なパフォーマンス。



* シンボルの長さでスキャン角度により決まる最小距離

付録 A 標準のデフォルト設定パラメータ

表 A-1 デフォルト テーブル

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
ユーザ設定			
リセット	N/A		3-4
工場出荷時の状態に戻す	N/A		3-4
設定日付	N/A		3-5
設定時刻	N/A		3-5
日付および時刻の設定をキャンセル	N/A		3-5
データのクリア	N/A		3-7
ビープ音の音量	0x8C	通常	3-8
ビープ音	0x91	中音	3-9
ビープ音のミュート	N/A	ミュートしない	3-10
スキャン角度	0xBF	ワイド (47°)	3-11
「読み取りなし」メッセージの転送	0x5E	無効	3-12
Bluetooth ペ어링解除	N/A		3-13
Bluetooth HID プロファイル	N/A		3-13
Bluetooth シリアル ポート プロファイル	N/A		3-13
すべての読み取り可能コードを無効化	N/A	N/A	3-14
リニア コード タイプのセキュリティ レベル	0x4E	1	3-15
双方向リダンダンシー	0x43	無効	3-16

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
データ オプション			
コード ID キャラクタの転送	0x2D	なし	3-17
プリフィックス/サフィックス値 プリフィックス サフィックス 1 サフィックス 2	0x69 0x68 0x6A	NULL LF CR	3-18
スキャン データ転送フォーマット	0xEB	データどおり	3-19
ファームウェア バージョンの送信	N/A		3-21
Bluetooth バージョンの送信	N/A		3-21
スキャン エンジン バージョンの送信	N/A		3-21
設定の保存	N/A		3-22
読み取り可能コード			
UPC/EAN/JAN			
UPC-A	0x01	有効	4-5
UPC-E	0x02	有効	4-5
UPC-E1	0x0C	無効	4-6
EAN/JAN-8	0x04	有効	4-6
EAN/JAN-13	0x03	有効	4-7
Bookland EAN	0x53	無効	4-7
UPC/EAN/JAN サプリメンタルの読み取り	0x10	無視	4-8
ユーザプログラム可能なサプリメンタル サプリメンタル 1: サプリメンタル 2:	0xF1 0x43 0xF1 0x44		4-12
UPC/EAN/JAN サプリメンタルリダンダンシー	0x50	7	4-12
UPC-A チェック デジットを転送	0x28	有効	4-13
UPC-E チェック デジットを転送	0x29	有効	4-13
UPC-E1 チェック デジットを転送	0x2A	有効	4-14
UPC-A プリアンブル	0x22	システム キャラクタ	4-14
UPC-E プリアンブル	0x23	システム キャラクタ	4-15
UPC-E1 プリアンブル	0x24	システム キャラクタ	4-16

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
UPC-E から A フォーマットへの変換	0x25	無効	4-17
UPC-E1 から A フォーマットへの変換	0x26	無効	4-17
EAN/JAN-8 Zero Extend	0x27	無効	4-18
Bookland ISBN 形式	0xF1 0x40	ISBN-10	4-19
UPC/EAN/JAN セキュリティ レベル	0x4D	0	4-20
UCC Coupon Extended Code	0x55	無効	4-21
Code 128			
Code 128	0x08	有効	4-21
GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)	0x0E	有効	4-22
ISBT 128	0x54	有効	4-22
Code 39			
Code 39	0x00	有効	4-23
Trioptic Code 39	0x0D	無効	4-23
Code 39 から Code 32 への変換	0x56	無効	4-24
Code 32 プリフィックス	0xE7	無効	4-24
Code 39 の読み取り桁数設定	0x12 0x13	2-55	4-25
Code 39 チェック デジット検証	0x30	無効	4-26
Code 39 チェック デジットを転送	0x2B	無効	4-26
Code 39 Full ASCII 変換	0x11	無効	4-27
Code 93			
Code 93	0x09	無効	4-28
Code 93 の読み取り桁数設定	0x1A 0x1B	4-55	4-28
Code 11			
Code 11	0x0A	無効	4-30
Code 11 の読み取り桁数設定	0x1C 0x1D	4 ~ 55	4-30
Code 11 チェック デジット検証	0x34	無効	4-32
Code 11 チェック デジットの転送	0x2F	無効	4-33

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16 進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
Interleaved 2 of 5			
Interleaved 2 of 5	0x06	有効	4-33
l 2 of 5 の読み取り桁数設定	0x16 0x17	14	4-34
Interleaved 2 of 5 チェック デジット検証	0x31	無効	4-36
Interleaved 2 of 5 チェック デジットを転送	0x2C	無効	4-36
Interleaved 2 of 5 から EAN 13 への変換	0x52	無効	4-37
Discrete 2 of 5			
Discrete 2 of 5	0x05	無効	4-37
Discrete 2 of 5 の読み取り桁数設定	0x14 0x15	12	4-38
Chinese 2 of 5			
Chinese 2 of 5	0xF0 0x98	無効	4-39
Codabar			
Codabar	0x07	無効	4-39
Codabar の読み取り桁数設定	0x18 0x19	5-55	4-40
CLSI 編集	0x36	無効	4-41
NOTIS 編集	0x37	無効	4-41
MSI			
MSI	0x0B	無効	4-42
MSI の読み取り桁数設定	0x1E 0x1F	6-55	4-43
MSI チェック デジット	0x32	1 つ	4-44
MSI チェック デジットの転送	0x2E	無効	4-44
MSI チェック デジットのアルゴリズム	0x33	Mod 10/Mod 10	4-45

表 A-1 デフォルト テーブル (続き)

パラメータ	パラメータ番号 (16進数)	工場出荷時の デフォルト設定	ページ 番号
GS1 DataBar			
GS1 DataBar-14	0xF0 0x52	無効	4-45
GS1 DataBar Limited	0xF0 0x53	無効	4-46
GS1 DataBar Expanded	0xF0 0x54	無効	4-46
GS1 DataBar を UPC/EAN/JAN に変換	0xF0 0x8D	無効	4-47

付録 B プログラミング リファレンス

コードタイプ ID

表 B-1 コードタイプ ID

コードタイプ	16進値	コードタイプ	16進値
該当なし	0x00	EAN/JAN-8 with 2 Supps.	0x4A
Code 39	0x01	EAN/JAN-8 with 5 Supps.	0x8A
Codabar	0x02	EAN/JAN-13	0x0B
Code 128	0x03	EAN/JAN-13 with 2 Supps.	0x4B
Code 11	0x0C	EAN/JAN-13 with 5 Supps.	0x8B
Chinese 2 of 5	0x72	MSI	0x0E
Discrete 2 of 5	0x04	GS1-128	0x0F
IATA 2 of 5	0x05	UPC-E1	0x10
Interleaved 2 of 5	0x06	UPC-E1 with 2 Supps.	0x50
Code 93	0x07	UPC-E1 with 5 Supps.	0x90
UPC-A	0x08	Trioptic Code 39	0x15
UPC-A with 2 Supps.	0x48	Bookland EAN	0x16
UPC-A with 5 Supps.	0x88	Coupon Code	0x17
UPC-E0	0x09	GS1 DataBar Limited	0x23
UPC-E0 with 2 Supps.	0x49	GS1 DataBar-14	0x24
UPC-E0 with 5 Supps.	0x89	GS1 DataBar Expanded	0x25
EAN/JAN-8	0x0A		

シンボルコードID

表 B-2 シンボルコードキャラクタ

コードキャラクタ	コードタイプ
A	UPC/EAN/JAN
B	Code 39、Code 39 Full ASCII、Code 32
C	Codabar
D	Code 128、ISBT 128
E	Code 93
F	Interleaved 2 of 5
G	Discrete 2 of 5、または Discrete 2 of 5 IATA
H	Code 11
J	MSI
K	UCC/EAN-128
L	Bookland EAN
M	Trioptic Code 39
R	GS1 DataBar ファミリ

AIM コード ID

各 AIM コード ID は、**jcm** の 3 文字で構成されています。それぞれの意味は次のとおりです。

- j** = フラグ キャラクタ (ASCII 93)
- c** = コード キャラクタ (表 B-3 参照)
- m** = 修飾 キャラクタ (表 B-4 参照)

表 B-3 AIM コード キャラクタ

コード キャラクタ	コード タイプ
A	Code 39、Code 39 Full ASCII、Code 32
C	Code 128 (全バリエーション)
E	UPC/EAN/JAN
e	GS1 DataBar ファミリ
F	Codabar
G	Code 93
H	Code 11
I	Interleaved 2 of 5
M	MSI
S	Discrete 2 of 5、IATA 2 of 5
X	Code 39 Trioptic、Bookland EAN

修飾キャラクタは、当該オプションの値の和で、表 B-4 に基づいています。

表 B-4 修飾キャラクタ

コードタイプ	オプション値	オプション
Code 39	0	チェック キャラクタまたは Full ASCII の処理なし。
	1	リーダーは 1 つのチェック キャラクタをチェックしました。
	3	リーダーはチェック キャラクタをチェックして取り除きました。
	4	リーダーは Full ASCII キャラクタ変換を実行しました。
	5	リーダーは Full ASCII キャラクタ変換を実行し、1 つのチェック キャラクタをチェックしました。
	7	リーダーは Full ASCII キャラクタ変換を実行し、チェック キャラクタをチェックして取り除きました。
Trioptic Code 39	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
	例: Trioptic バーコード 412356 は JX0412356 として転送される。	
Code 128	0	標準データ パケット、最初のシンボル位置にファンクション コード 1 なし。
	1	最初のシンボル キャラクタ位置にファンクション コード 1。
	2	2 番目のシンボル キャラクタ位置にファンクション コード 1。
	例: 最初の位置に ^{FNC1} がある Code (EAN) 128 バーコードの場合、(FNC1) AimID は、 JC1AimID として転送される。	
I 2 of 5	0	チェック デジットの処理なし。
	1	リーダーはチェック デジットを検証しました。
	3	リーダーはチェック デジットをチェックして取り除きました。
		例: チェック デジットのない I 2 of 5 バーコードの場合、4123 は、 J104123 として転送される。
Codabar	0	標準 Codabar
	1	ABC Codabar
	3	リーダーは転送前にチェック デジットを取り除きました。
		例: チェック デジットなしの Codabar バーコード、4123 は JF04123 として転送される。
Code 93	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
	例: Code 93 バーコード 012345678905 は JG0012345678905 として転送される。	

表 B-4 修飾キャラクタ (続き)

コードタイプ	オプション値	オプション
MSI	0	チェック デジットが送信される。
	1	チェック デジットは送信されない。
	例: MSI バーコードで 1 つのチェック デジットがチェックされた場合、4123 は、 JM14123 として転送される。	
D 2 of 5	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
	例: Discrete 2 of 5 バーコード 4123 は JS04123 として転送される。	
UPC/EAN/JAN	0	UPC-A、UPC-E、および EAN/JAN-13 (サプリメント データを含まない) で 13 桁のフル EAN 国コード形式の標準パケット。
	1	2 桁のサプリメント データのみ。
	2	5 桁のサプリメント データのみ。
	3	UPC-A、UPC-E、または EAN/JAN-13 シンボルの 13 桁とサプリメント シンボルの 2 または 5 桁で構成される結合データ パケット。
	4	EAN/JAN-8 データ パケット。
	例: UPC-A バーコード 012345678905 は JE00012345678905 として転送される。	
Bookland EAN	0	この時点で指定されたオプションなし。常に 0 が転送されます。
	例: Bookland EAN バーコード 123456789X は JX0123456789X として転送される。	
Code 11	0	単一チェック デジット。
	1	2 つのチェック デジット。
	3	チェック キャラクタは検証されましたが送信されませんでした。
	例: 1 チェック デジットが有効かつチェック デジットの転送が有効になっている Code 11 バーコード 12345678901 は JH012345678901 として転送される。	

GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)

GS1-128 は、標準 Code 128 バーコード シンボルのデータ フィールドを印刷するための規則です。GS1-128 シンボルは、シンボルの 1 番目および 2 番目のキャラクタとして先頭に付く FNC 1 キャラクタで見分けられます。他の FNC 1 キャラクタは、描写フィールドに使用されます。

GS1-128 シンボルが読み取られると、先頭の FNC 1 キャラクタを取り除いた特殊形式の後に転送され、他の FNC 1 キャラクタは ASCII 29 (GS) 制御キャラクタに置き換えられます。

AIM 読み取り可能コード ID が転送されると、修飾キャラクタは AIM ガイドラインに従った先頭の FNC 1 キャラクタの位置を示します。たとえば、**jc1** は先頭に FNC 1 キャラクタの付いた GS1-128 シンボルを表します。

先頭に FNC 1 が付かない標準 Code 128 バーコードも使用できますが、GS1-128 規則に従ってエンコードされることはありません。標準 Code 128 および GS1-128 は、アプリケーション内に混在できます。CS3070 はこれらのシンボル間を自動認識し、片方または両方のコード タイプを有効または無効にできます。表 B-5 では、4 つのパラメータ設定それぞれでの CS3070 の動作を表しています。

表 B-5 標準 Code 128 & GS1-128 の読み取り

標準 Code 128	GS1-128	効果と例
無効	無効	Code 128 シンボルは読み取れない。
無効	有効	先頭に FNC 1 の付いたシンボルだけを読み取る。 例： FNC1ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる A ^{FNC1} BCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる FNC1FNC1ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる ABCD ^{FNC1} E は読み取ることができない ABCDE は読み取ることができない
有効	無効	先頭に FNC 1 の付いていないシンボルだけを読み取る。 例： FNC1ABCD ^{FNC1} E は読み取ることができない A ^{FNC1} BCD ^{FNC1} E は読み取ることができない FNC1FNC1ABCD ^{FNC1} E は読み取ることができない ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる ABCDE は ABCDE として読み取られる
有効	有効	両方のタイプのシンボルを読み取る。 例： FNC1ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる A ^{FNC1} BCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる FNC1FNC1ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる ABCD ^{FNC1} E は ABCD ²⁹ E として読み取られる ABCDE は ABCDE として読み取られる

プリフィックスとサフィックスの設定

読み取りデータにプリフィックスおよびサフィックスを付加するには、次の手順に従います。

1. スキャン データ転送フォーマット (パラメータ 0xE2) を希望のオプションに設定します。
2. 表 B-6 にある希望の ASCII 値の 16 進数を使用して、プリフィックス (0x69)、サフィックス 1 (0x68) またはサフィックス 2 (0x6A) の必須値を入力します。

表 B-6 キャラクタ同等

スキャン値	16 進値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1000	00h	%U	CTRL 2
1001	01h	\$A	CTRL A
1002	02h	\$B	CTRL B
1003	03h	\$C	CTRL C
1004	04h	\$D	CTRL D
1005	05h	\$E	CTRL E
1006	06h	\$F	CTRL F
1007	07h	\$G	CTRL G
1008	08h	\$H	CTRL H
1009	09h	\$I	CTRL I
1010	0Ah	\$J	CTRL J
1011	0Bh	\$K	CTRL K
1012	0Ch	\$L	CTRL L
1013	0Dh	\$M	CTRL M
1014	0Eh	\$N	CTRL N
1015	0Fh	\$O	CTRL O
1016	10h	\$P	CTRL P
1017	11h	\$Q	CTRL Q
1018	12h	\$R	CTRL R
1019	13h	\$S	CTRL S
1020	14h	\$T	CTRL T
1021	15h	\$U	CTRL U
1022	16h	\$V	CTRL V
1023	17h	\$W	CTRL W
1024	18h	\$X	CTRL X

表 B-6 キャラクタ同等 (続き)

スキャン値	16進値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1025	19h	\$Y	CTRL Y
1026	1Ah	\$Z	CTRL Z
1027	1Bh	%A	CTRL [
1028	1Ch	%B	CTRL \
1029	1Dh	%C	CTRL]
1030	1Eh	%D	CTRL 6
1031	1Fh	%E	CTRL -
1032	20h	スペース	スペース
1033	21h	/A	!
1034	22h	/B	'
1035	23h	/C	#
1036	24h	/D	\$
1037	25h	/E	%
1038	26h	/F	&
1039	27h	/G	'
1040	28h	/H	(
1041	29h	/I)
1042	2Ah	/J	*
1043	2Bh	/K	+
1044	2Ch	/L	,
1045	2Dh	-	-
1046	2Eh	.	.
1047	2Fh	/	/
1048	30h	0	0
1049	31h	1	1
1050	32h	2	2
1051	33h	3	3
1052	34h	4	4
1053	35h	5	5
1054	36h	6	6
1055	37h	7	7

表 B-6 キャラクタ同等 (続き)

スキャン値	16進値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1056	38h	8	8
1057	39h	9	9
1058	3Ah	/Z	:
1059	3Bh	%F	;
1060	3Ch	%G	<
1061	3Dh	%H	=
1062	3Eh	%I	>
1063	3Fh	%J	?
1064	40h	%V	@
1065	41h	A	A
1066	42h	B	B
1067	43h	C	C
1068	44h	D	D
1069	45h	E	E
1070	46h	F	F
1071	47h	G	G
1072	48h	H	H
1073	49h	I	I
1074	4Ah	J	J
1075	4Bh	K	K
1076	4Ch	L	L
1077	4Dh	M	M
1078	4Eh	N	N
1079	4Fh	O	O
1080	50h	P	P
1081	51h	Q	Q
1082	52h	R	R
1083	53h	S	S
1084	54h	T	T
1085	55h	U	U
1086	56h	V	V

表 B-6 キャラクタ同等 (続き)

スキャン値	16進値	Full ASCII Code 39 エンコード キャラクタ	キーストローク
1087	57h	W	W
1088	58h	X	X
1089	59h	Y	Y
1090	5Ah	Z	Z
1091	5Bh	%K	[
1092	5Ch	%L	\
1093	5Dh	%M]
1094	5Eh	%N	^
1095	5Fh	%O	_
1096	60h	%W	'
1097	61h	+A	a
1098	62h	+B	b
1099	63h	+C	c
1100	64h	+D	d
1101	65h	+E	e
1102	66h	+F	f
1103	67h	+G	g
1104	68h	+H	h
1105	69h	+I	i
1106	6Ah	+J	j
1107	6Bh	+K	k
1108	6Ch	+L	l
1109	6Dh	+M	m
1110	6Eh	+N	n
1111	6Fh	+O	o
1112	70h	+P	p
1113	71h	+Q	q
1114	72h	+R	r
1115	73h	+S	s
1116	74h	+T	t
1117	75h	+U	u

表 B-6 キャラクタ同等 (続き)

スキャン値	16進値	Full ASCII Code 39 エンコードキャラクタ	キーストローク
1118	76h	+V	v
1119	77h	+W	w
1120	78h	+X	x
1121	79h	+Y	y
1122	7Ah	+Z	z
1123	7Bh	%P	{
1124	7Ch	%Q	
1125	7Dh	%R	}
1126	7Eh	%S	~
1127	7Fh		未定義

1128 ~ 1255 の値も設定可能。

付録 C サンプルバーコード

UPC-A



UPC-E

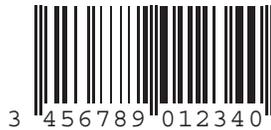


UPC-E1

- ✓ **注** サンプルをスキャンするためにこの読み取り可能コードを有効にするには、[4-6 ページの「UPC-E1 の有効化/無効化」](#)を参照してください。



EAN/JAN-13



EAN/JAN-8



Code 39



Trioptic Code 39

- ✓ 注 サンプルをスキャンするためにこの読み取り可能コードを有効にするには、[4-23 ページの「Trioptic Code 39 を有効/無効にする」](#)を参照してください。



Code 93

- ✓ 注 サンプルをスキャンするためにこの読み取り可能コードを有効にするには、[4-28 ページの「Code 93 を有効/無効にする」](#)を参照してください。



Code 11

- ✓ 注 サンプルをスキャンするためにこの読み取り可能コードを有効にするには、[4-30 ページの「Code 11 を有効/無効にする」](#)を参照してください。



Codabar

- ✓ **注** サンプルをスキャンするためにこの読み取り可能コードを有効にするには、[4-39 ページの「Codabar を有効/無効にする」](#)を参照してください。



A1234567890A

MSI

- ✓ **注** サンプルをスキャンするためにこの読み取り可能コードを有効にするには、[4-42 ページの「MSI の読み取り」](#)を参照してください。



123456789

Interleaved 2 of 5



12345678912345

索引

A

AIM コード ID	B-3
修飾キャラクタ	B-4

B

Bluetooth	1-1
HID ペアリング	1-6, 1-7, 1-13, 1-17
HID プロファイル	3-13
iPad のペアリング	1-21
LED の定義	2-4
PIN	1-26
SPP プロファイル	3-13
SPP ペアリング	1-10
アドレス	1-25, 1-26
エリア外	2-3
シリアル番号	1-25, 1-26
接続	1-5, 1-6
データの転送	2-2
ビープ音の定義	2-5
プロファイル	3-13
ペアリング解除	3-13
ボタン	1-1, 1-6, 1-7, 1-13, 1-21
Bluetooth PIN	1-26

D

Droid	
ペアリング	1-6

G

GS1-128	B-6
---------------	-----

I

iPad	
ペアリング	1-21

L

LED	1-1
充電	1-5
定義	2-3

M

Motorola Solutions サポートxiii
-------------------------------	-------

P

PIN	
数値バーコード	1-24
デフォルト	1-26

U

USB	1-1
ポート	1-1

W

Windows Mobile Device	
ペアリング	1-13, 1-17

い

インタフェース	1-1
---------------	-----

き

技術仕様	5-3
規則	
表記	xii

く

クリーニング	5-1
クレードル	1-2
充電	1-4
接続	1-2

け

ケーブル	
設置	1-2
ホスト	1-3

こ

構成ファイル	1-25
パラメータ	1-26
編集	1-26
コード ID	
AIM	B-3
AIM 修飾キャラクタ	B-4
シンボル	B-2
コードタイプ	
ID	B-1

さ

サービス情報	xiii
サフィックス	B-7
サポート	xiii
サンプル バーコード	C-1
UPC/EAN/JAN	4-5

し

時刻	
設定	1-27, 3-5, 3-6
自動実行	2-2
充電	1-3, 1-5
LED	1-5
LED の定義	2-4
USB ホスト ケーブルによる	1-3
クレードルによる	1-4
仕様	5-3
シンボル コード ID	B-2

す

数値バーコード	4-48
PIN 入力用	1-24
スキャナの構成	1-25
構成ファイルの編集	1-26
スキャナのデフォルト設定	3-2
スキャナのリセット	3-4
工場出荷時の状態に	3-4
スキャン	2-1
エラー	3-1, 4-1
シーケンスの例	4-1
照準	2-1
スキャン角度	3-11
データの転送	2-2
パラメータ	3-1
ボタン	1-1

せ

接続	
Bluetooth	1-5, 1-6
クレードル	1-2, 1-4
バッチ	1-5
ホストへ	1-5
設定の保存	3-22
セットアップ	
Bluetooth	1-5, 1-6
クレードル	1-2
構成ファイルの編集	1-26
充電	1-3
スキャナ	1-2
スキャナの構成	1-25
パッケージの開梱	1-2
ホストへの接続	1-5

て

データ ストレージ	1-3
データのクリア	3-7
データの転送	2-2
Bluetooth	2-2
デフォルト設定パラメータ	3-2
ユーザ設定	3-2
デフォルト テーブル	4-2, A-1
デフォルト設定パラメータ	
読み取り可能コード	4-2

と

トラブルシューティング	5-2
-------------	-----

は

バーコード

Bluetooth オプション	3-13
Chinese 2 of 5	4-39
Codabar	4-39
CLSI 編集	4-41
NOTIS 編集	4-41
読み取り桁数	4-40
Code 11	4-30
読み取り桁数	4-30
Code 128	4-21
読み取り桁数	4-22
Code 39	4-23
読み取り桁数	4-25
Code 93	
読み取り桁数	4-28
code 128	
GS1-128	4-22
ISBT 128	4-22
code 39	
trioptic 39	4-23
Code 11	
チェック デジットの転送	4-33
Code 39	
Code 39 Full ASCII	4-27
チェック デジットの確認	4-26
チェック デジットの転送	4-26
Code 93	4-28
Discrete 2 of 5	4-37
読み取り桁数	4-38
GS1 DataBar	4-45
GS1 DataBar-14	4-45
GS1 DataBar Expanded	4-46
GS1 DataBar Limited	4-46
GS1 Databar	
UPC/EAN/JAN への変換	4-47
Interleaved 2 of 5	4-33
1 2 of 5 の EAN-13 への変換	4-37
チェック デジット検証	4-36
チェック デジットの転送	4-36
読み取り桁数	4-34
MSI Plessey	
チェック デジット	4-44
チェック デジット アルゴリズム	4-45
チェック デジットの転送	4-44
MSI plessey	4-42
読み取り桁数	4-43
「NR (読み取りなし)」メッセージの転送	3-12
PIN 入力用数値	1-24
UPC/EAN/JAN	
bookland EAN	4-7
bookland ISBN 形式	4-19
EAN/JAN-13	4-7
EAN/JAN-8	4-6
UCC Coupon Extended Code	4-21
UPC-A	4-5
UPC-A チェック デジット	4-13
UPC-A プリアンブル	4-14
UPC-E	4-5
UPC-E1	4-6
UPC-E1 zero extend	4-18
UPC-E1 から UPC-A への変換	4-17
UPC-E1 チェック デジット	4-14
UPC-E1 プリアンブル	4-16
UPC-E から UPC-A への変換	4-17
UPC-E チェック デジット	4-13
UPC-E プリアンブル	4-15
サブリメンタルのデコード	4-8
セキュリティ レベル	4-20
ユーザプログラム可能なサブリメンタル	4-12
サブリメンタルの読み取り冗長	4-12
キャンセル	4-50
工場出荷時の状態に戻す	3-4
コード ID キャラクタの転送	3-17
サンプル	C-1
数値	4-48
スキャン角度	3-11
スキャン データ転送フォーマット	3-19
すべてのシンボル体系の無効化	3-14
設定の保存	3-22
双方向的冗長性	3-16
データのクリア	3-7
バージョンの送信	3-21
日付と時刻の設定	3-5
ビーブ音の音程	3-9
ビーブ音の音量	3-8
ビーブ音のミュート	3-10
プリフィックス/サフィックス値	3-18
読み取り可能コード	
Code 11 チェック デジットの確認	4-32
デフォルトの一覧	4-2
リセット	3-4
リニアコードタイプのセキュリティ	3-15-3-16
バーコードの削除	2-2
バージョン	
バーコード	3-21
パスキー	1-8, 1-12
数値バーコード	1-24
パッケージの開梱	1-2
バッチ	1-5
データの転送	2-2
バッテリー	
USB ホスト ケーブルによる充電	1-3
クレードルによる充電	1-4
交換	1-3
充電	1-3, 1-5

ひ

日付	
設定	1-26, 3-5, 3-6
ビープ音	
音程の設定	3-9
音量の設定	3-8
定義	2-5
ミュート	3-10
ビュレット	xii
表記規則	xii
標準のデフォルト設定	3-2
ピン	1-8, 1-12, 1-26

ふ

プリフィックス	B-7
---------	-----

へ

ペアリング	1-5, 1-6
Droid	1-6
HID	1-6, 1-7, 1-13, 1-17
iPad	1-21
SPP	1-10
Windows Mobile Device	1-13, 1-17
ペアリングの解除	3-13, 1-23

ほ

ボタン	
Bluetooth	1-1, 1-6, 1-7, 1-13, 1-21
削除	2-2
スキャン	1-1

め

メンテナンス	5-1
--------	-----

ゆ

ユーザ インタフェース	2-3
ユーザインタフェース	
LED の定義	2-3
ユーザ設定パラメータ	3-2

よ

読み取り可能コードのデフォルト設定パラメータ	4-2
読み取り可能範囲	5-3

クイック スタート ガイド

はじめに

デバイス レイアウト: ボタン/LED/USB ポート	1-1、2-1、2-2
充電時	1-3、1-5、2-3
バッテリー強度 LED	1-3
LED 表示の表	2-3

バッチ操作

BarcodeFile.txt - バッチ スキャンしたデータを保存するファイル	2-2
バッチ データ転送処理	1-3、1-5
全バーコード データのクリア	2-2、2-3、3-7

Bluetooth 動作

Bluetooth プロファイル オプション	1-5
ペアリング	

シリアル ポート プロファイル (概要)	1-6
SPP モード/PIN 入力のためのバーコード	1-19、1-26、3-13
PC ホスト	1-10
スマートフォン (Windows Mobile 6.5)	1-17
HID (概要)	1-6
HID モード/PIN 入力のためのバーコード	1-24、3-13
Droid	1-6
PC ホスト	1-7
スマートフォン (Windows Mobile 6.5)	1-13

データの転送	2-2
エリア外の動作	2-3

開発者への推奨事項

Bluetooth 接続オプション	1-6、2-2
バッチ プログラミング オプション/Autorun.inf	2-2
複数スキャナのステージング	
バーコードによるゴールデン スキャナのプログラミング	1-25
config.ini ファイルの生成	1-25
config.ini ファイルの編集	1-26
複数スキャナのステージング	1-25

よく使用するパラメータ

工場出荷時の状態に戻す	3-4
デフォルトのパラメータ設定の表	3-2、A-1
時刻/日付のプログラミング	1-26、3-5、3-6
時刻/日付スタンプの有効化	1-26
ビープ音の設定	3-8、3-9、3-10
すべての読み取り可能コードの無効化	3-14
データ フォーマット (プリフィックス/サフィックス値)	3-17、3-18、3-19、B-7
数値バーコード	
HID ペアリング	1-24
時刻/日付の入力	3-6
一般に使用する数値バーコード	4-48
スリープ モード	1-27
Bluetooth プロファイル (HID および SPP)	3-13



Motorola Solutions, Inc.
One Motorola Plaza
Holtsville, New York 11742-1300
1-800-927-9626
<http://www.motorolasolutions.com>

MOTOROLA、MOTO、MOTOROLA SOLUTIONS、Stylized M のロゴマークは、Motorola Trademark Holdings, LLC の商標または登録商標であり、ライセンスの下に使用されています。その他のすべての商標は、該当する各所有者が権利を有しています。
© 2013 Motorola Solutions, Inc. All rights reserved.



72E-136088-04JA Revision A - 2013 年 2 月

